

MITSUBISHI

三菱 汎用 シーケンサ

MELSEC **Q** series MELSEC **L** series

MELSEC-Q/L Ethernetインタフェースユニット ユーザーズマニュアル

Web機能編

Q SERIES L SERIES

-QJ71E71-100
-QJ71E71-B5
-QJ71E71-B2
-LJ71E71-100

● 安全上のご注意 ●

(ご使用前に必ずお読みください)

本製品のご使用に際しては、本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って、正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は、本製品に関するもののみにについて記載したものです。シーケンサシステムとしての安全上のご注意に関しては、使用するCPUユニットのユーザズマニュアルを参照してください。

この●安全上のご注意●では、安全注意事項のランクを「警告」、「注意」として区分してあります。



警告

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。



注意

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、⚠ 注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に、必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

【設計上の注意事項】



警告

- ネットワークが交信異常になったときの各局の動作状態については、そのネットワークに関連するマニュアルを参照してください
誤出力、誤動作により、事故の恐れがあります。
- 不正な電子メールによるシーケンサシステムの誤動作を防止するため、本ユニット側のメールサーバが不正な電子メールを受信しないようにしてください。（ウィルス対策など）
- インターネット経由の外部機器からの不正アクセスに対してシーケンサシステムの安全を保つ必要があるときは、ユーザによる対策を盛り込んでください。

【設計上の注意事項】

警告

- CPUユニットに周辺機器を接続、またはインテリジェント機能ユニットにパソコンなどを接続して、運転中のシーケンサのデータを変更するときは、常時システム全体が安全側に働くように、シーケンスプログラム上でインタロック回路を構成してください。
また、プログラム変更、運転状態変更を行うときは、関連するマニュアルを熟読し、十分に安全を確認してから行ってください。
特に外部機器から遠隔地のシーケンサに対する上記制御では、データ交信異常によりシーケンサ側のトラブルに即対応できない場合もあります。
シーケンスプログラム上でインタロック回路を構成すると共に、データ交信異常が発生時のシステムとしての処置方法などを外部機器とCPUユニット間で取り決めてください。
- インテリジェント機能ユニットのバッファメモリの「システムエリア」にデータを書き込まないでください。
また、CPUユニットからインテリジェント機能ユニットに対する出力信号の中で、「使用禁止」の信号を出力(ON)しないでください。
「システムエリア」に対するデータ書込み、「使用禁止」の信号に対する出力を行うと、シーケンサシステムが誤動作する危険性があります。

注意

- 制御線や通信ケーブルは、主回路や動力線などと束線したり、近接したりしないでください。
100mm以上を目安として離してください。
ノイズにより、誤動作の原因になります。
- 相手機器からCPUユニットに対する運転状態変更（リモートRUN/STOPなど）を行うときは、ネットワークパラメータのイニシャルタイミング設定を、「常にOPEN待ち（STOP中交信可能）」に設定してください。
イニシャルタイミング設定が「OPEN待ちにしない（STOP中交信不可）」に設定されている場合は、相手機器からリモートSTOPを実行すると通信回線がクローズされます。
以後はCPUユニット側で再オープンができなくなり、相手機器からのリモートRUNも実行できなくなります。

【運転時の注意事項】

注意

- インテリジェント機能ユニットにパソコンなどを接続して、運転中のシーケンサのデータ変更、プログラム変更、運転状態変更を行うときは、関連するマニュアルを熟読し、十分に安全を確認してから行ってください。
データ変更、プログラム変更、運転状態変更を誤ると、システムの誤動作、機械の破損や事故の原因になります。

● 製品の適用について ●

- (1) 当社シーケンサをご使用いただくにあたりましては、万ーシーケンサに故障・不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること、および故障・不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部でシステム的に実施されていることをご使用の条件とさせていただきます。
- (2) 当社シーケンサは、一般工業などへの用途を対象とした汎用品として設計・製作されています。したがって、以下のような機器・システムなどの特殊用途へのご使用については、当社シーケンサの適用を除外させていただきます。万ー使用された場合は当社として当社シーケンサの品質、性能、安全に関する一切の責任（債務不履行責任、瑕疵担保責任、品質保証責任、不法行為責任、製造物責任を含むがそれらに限定されない）を負わないものとさせていただきます。
- ・ 各電力会社殿の原子力発電所およびその他発電所向けなどの公共への影響が大きい用途
 - ・ 鉄道各社殿および官公庁殿など、特別な品質保証体制の構築を当社にご要求になる用途
 - ・ 航空宇宙、医療、鉄道、燃焼・燃料装置、乗用移動体、有人搬送装置、娯楽機械、安全機械など生命、身体、財産に大きな影響が予測される用途

ただし、上記の用途であっても、具体的に用途を限定すること、特別な品質（一般仕様を超えた品質等）をご要求されないこと等を条件に、当社の判断にて当社シーケンサの適用可とする場合もございますので、詳細につきましては当社窓口へご相談ください。

改 訂 履 歴

※取扱説明書番号は、本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※取扱説明書番号	改 訂 内 容
2001年 5月	SH(名)-080144-A	初版印刷
2003年 4月	SH(名)-080144-B	機種追加 QJ71E71-B5, QJ71E71-B2 一部修正 マニュアルの見方，総称・略称について，1.1項，2.1項，2.2項，3.2項，4.1項，第6章(1)
2005年 8月	SH(名)-080144-C	一部修正 1.1項，4.1項，4.4.3項，第6章
2007年 4月	SH(名)-080144-D	一部修正 マニュアルについて，総称・略称について，3.2項(1)，第6章(3)
2008年10月	SH(名)-080144-E	一部修正 安全上のご注意，マニュアルについて，総称・略称について，4.4項
2012年11月	SH(名)-080144-F	LJ71E71-100の機種追加に伴う全面見直し 機種追加 LJ71E71-100

本書によって，工業所有権その他の権利の実施に対する保証，または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については，当社は一切その責任を負うことができません。

は じ め に

このたびは、三菱シーケンサMELSEC-Q/Lシリーズをお買い上げいただきまことにありがとうございました。
本マニュアルは、EthernetインタフェースユニットによるWeb機能の使い方についてご理解いただくためのマニュアルです。

ご使用前に本マニュアルや関連マニュアルをよくお読みいただき、MELSEC-Q/Lシリーズシーケンサの機能・性能を十分ご理解のうえ、正しくご使用くださるようお願い致します。

本マニュアルで紹介するプログラム例を実際のシステムへ流用する場合は、対象システムにおける制御に問題がないことを十分検証ください。

本マニュアルにつきましては最終ユーザまでお届けいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

備 考

本マニュアルで紹介するプログラム例は、特に明記する場合を除き、Ethernetインタフェースユニットを入出力番号X/Y00～X/Y1Fに割り付けた例を記載しています。
入出力番号の割付けについては、使用するCPUユニットのユーザズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）を参照してください。

目 次

安全上のご注意	A- 1
製品の適用について	A- 3
改訂履歴	A- 4
マニュアルの見方	A- 8
総称・略称について	A- 9

1 概 要	1- 1~1- 4
-------	-----------

2 システム構成	2- 1~2- 4
----------	-----------

2.1 システム構成	2- 1
2.2 Web機能を使用するときの注意事項	2- 3

3 操作手順	3- 1~3- 4
--------	-----------

3.1 Web機能を使用して交信するまでの概略手順	3- 1
3.2 通信ライブラリ、サンプル画面のダウンロード、セットアップ	3- 2

4 サンプル画面を使用してWeb機能の動作を確認する	4- 1~4-17
----------------------------	-----------

4.1 サンプル画面の機能	4- 1
4.2 操作手順	4- 1
4.3 サンプル画面説明	4- 2
4.4 サンプル画面によるデータ交信例	4- 3
4.4.1 デバイス読み出し／書き込み	4- 5
4.4.2 リモートRUN/STOP	4- 9
4.4.3 スルーコマンド	4-11
4.4.4 プロキシ設定	4-14
4.5 サンプル画面のファイル構成	4-16

5 シーケンサアクセス用ファイルの作成例	5- 1~5- 9
----------------------	-----------

6 通信ライブラリ関数	6- 1~6- 5
-------------	-----------

索 引	索引- 1~索引- 2
-----	-------------

関連マニュアル

本製品に関連するマニュアルには、下記のものがあります。
必要に応じて本表を参考にしてご依頼ください。

マニュアル名称	マニュアル番号 (形名コード)	標準価格
Q対応Ethernetインタフェースユニットユーザーズマニュアル（基本編） Ethernetインタフェースユニットの仕様、相手機器とのデータ通信手順、回線接続（オープン／クローズ）、固定バッファ通信、ランダムアクセス用バッファ通信、トラブルシューティングについて説明しています。 (別売)	SH-080004 (13JQ36)	¥3,000
MELSEC-L Ethernetインタフェースユニットユーザーズマニュアル（基本編） Ethernetインタフェースユニットの仕様、相手機器とのデータ通信手順、回線接続（オープン／クローズ）、固定バッファ通信、ランダムアクセス用バッファ通信トラブルシューティングについて説明しています。 (別売)	SH-081104 (13J222)	¥3,000
MELSEC-Q/L Ethernetインタフェースユニットユーザーズマニュアル（応用編） Ethernetインタフェースユニットの電子メール機能、CC-Link IEコントローラネットワーク、CC-Link IEフィールドネットワーク、MELSECNET/H、MELSECNET/10を中継して通信する機能、データリンク用命令で通信する機能、ファイル転送（FTPサーバ）を使用する場合などについて説明しています。 (別売)	SH-080005 (13JQ37)	¥3,000
MELSEC-Q/L MELSECコミュニケーションプロトコルリファレンスマニュアル シリアルコミュニケーションユニット／Ethernetインタフェースユニットを使って、通信相手機器からCPUユニットに対するデータの読出し、書込みなどを行うためのMCプロトコルによる通信方法、制御手順について説明しています。 (別売)	SH-080003 (13JQ34)	¥4,000

マニュアルの見方

● 本マニュアルの見方

以下の内容を参考に本マニュアルをご使用ください。

(1) Web機能の使い方，使用環境を知りたいとき

- ・ 第1章に，Web機能の概要を記載しています。
- ・ 第2章に，Web機能を使用するためのシステム構成を記載しています。

(2) Web機能を使用するときの手順を知りたいとき

- ・ 3.1項に，Web機能を使用して交信するまでの手順を記載しています。
- ・ 3.2項に，通信ライブラリ，サンプル画面のダウンロード，セットアップ方法について記載しています。
- ・ 4.2項に，サンプル画面を使用してシーケンサへアクセスするときの手順を記載しています。

(3) Web機能の動作を確認するとき

第4章に，サンプル画面を使用してシーケンサへアクセスするときの例を記載しています。

(4) シーケンサへのアクセス用データをユーザで作成するとき

- ・ 4.5項に，シーケンサへのアクセス用としてユーザが作成するASP(Active Server Pages) ファイル，Webブラウザで表示するためのHTML(Hyper Text Markup Language) ファイルの概略を記載しています。
- ・ 第5章に，シーケンサアクセス用ファイルの作成例を記載しています。
- ・ 第6章に，通信ライブラリ関数について記載しています。

総称・略称について

本マニュアルでは、特に明記する場合を除き、下記に示す総称・略称を使って QJ71E71-100, QJ71E71-B5, QJ71E71-B2, LJ71E71-100 形 Ethernet インタフェースユニットについて説明します。

総称／略称	総称・略称の内容
ASP	Active Server Pagesの略称。
CPUユニット	QCPU, LCPUの総称。
Ethernetユニット	QJ71E71-100, QJ71E71-B5, QJ71E71-B2, LJ71E71-100 形 Ethernet インタフェースユニットの略称。
プログラミングツール	GX Work2, GX Developerの総称。
HTML	Hyper Text Markup Languageの略称。
HTTP	Hyper Text Transfer Protocolの略称。 WebブラウザとWebサーバ間でHTMLなどのコンテンツの送受信に用いられる通信プロトコルです。
MCプロトコル	MELSECコミュニケーションプロトコルの略称。 外部機器からのMCプロトコル対応機器(シリアルコミュニケーションユニット, Ethernetユニットなど), およびMCプロトコル対応機器に接続されたシーケンサにアクセスするためのプロトコルの総称。
QCPU	ベーシックモデルQCPU, ハイパフォーマンスモデルQCPU, プロセスCPU, 二重化CPU, ユニバーサルモデルQCPUの総称。
LCPU	MELSEC-LシリーズCPUユニットの総称。
URL	Uniform Resource Locatorの略称。
Webサーバ	Webサーバソフトウェアが動作するコンピュータの略称。
Webサーバソフトウェア	WWW (World Wide Web) サービスをサポートするサーバソフトウェアの総称。
Webブラウザ	Webページを閲覧するためのソフトウェアの略称。
相手機器	データ交信するために, Ethernetで接続されているパソコン, 計算機, ワークステーション, 他Ethernetユニットなどの総称。
ユーザーズマニュアル (基本編)	Q対応Ethernetインタフェースユニットユーザーズマニュアル (基本編) MELSEC-L Ethernetインタフェースユニットユーザーズマニュアル (基本編)
ユーザーズマニュアル (応用編)	MELSEC-Q/L Ethernetインタフェースユニットユーザーズマニュアル (応用編)
ユーザーズマニュアル (Web機能編)	MELSEC-Q/L Ethernetインタフェースユニットユーザーズマニュアル (Web機能編)
リファレンスマニュアル	MELSEC-Q/L MELSECコミュニケーションプロトコルリファレンスマニュアル

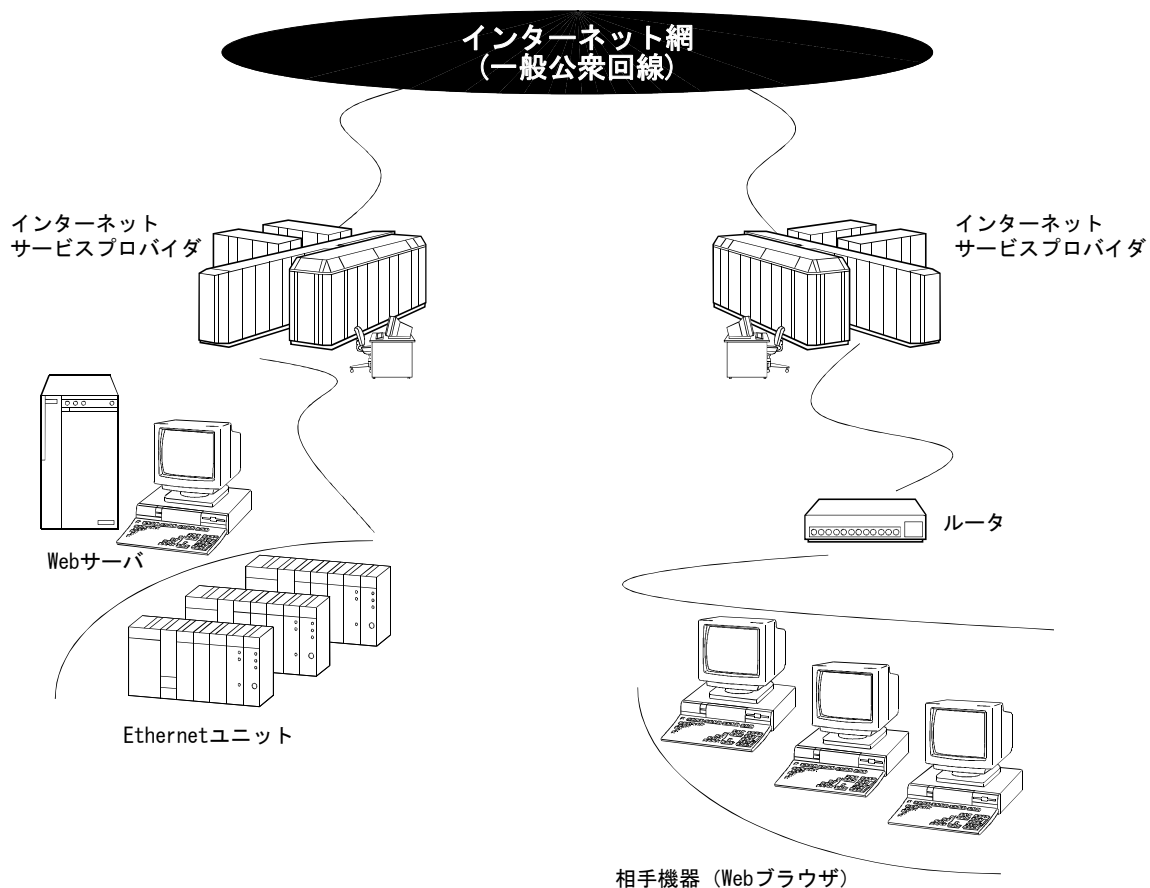
1 概 要

1

EthernetユニットのWeb機能の概要を以下に示します。

(1) Web機能によるインターネット経由でのシーケンサ監視

EthernetユニットのWeb機能は、Webブラウザを使用して、システム管理者が遠隔地にあるMELSEC-Q/LシリーズのCPUユニットをインターネット経由で監視するための機能です。



(2) シーケンサへのアクセス機能

Web機能を使用することにより、Webブラウザを使ってシーケンサ側設備の管理監視を行うためのシーケンサデータの収集／変更、CPUユニットの動作監視、状態制御を行うことができます。（＊1）

＊1 Web機能によるEthernetユニットとWebサーバ間およびWebサーバとWebブラウザ間の情報の交信はHTTPで行われます。

シーケンサと相手機器との交信で使用するMCプロトコルの伝文をHTTPで送受信することにより、Web機能によるシーケンサへのアクセスを実現しています。

(3) 通信ライブラリ、サンプル画面の提供

(a) 以下を用意することにより、Web機能を使用することができます。

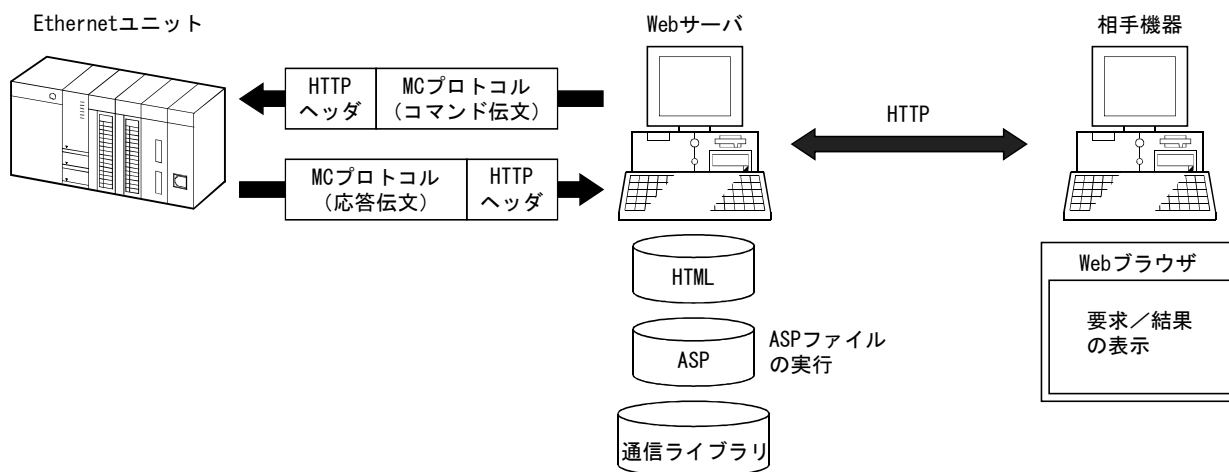
	必要な機器／ソフトウェア	概 要
シーケンサ側	Ethernetユニット	本マニュアルの対象ユニット
サーバコンピュータ (Webサーバ)	Webサーバ	2.1項(4)参照
	通信ライブラリ	(b)参照
	ASPファイル	シーケンサへのアクセス用 ユーザ作成ファイル
	HTMLファイル	Webブラウザへの表示用 ユーザ作成ファイル
Webブラウザ側機器	Webブラウザ	2.1項(4)参照

(b) 通信ライブラリとWeb機能によるシーケンサへのアクセス機能を確認するためのサンプル画面（HTMLファイル、ASPファイル）は三菱電機FAサイトにて無償で提供しています。

（三菱電機FAサイト(<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/fa/>)）

① 通信ライブラリを使うことで、シーケンサへアクセスするためのASPファイルをユーザにて容易に作成することができます。

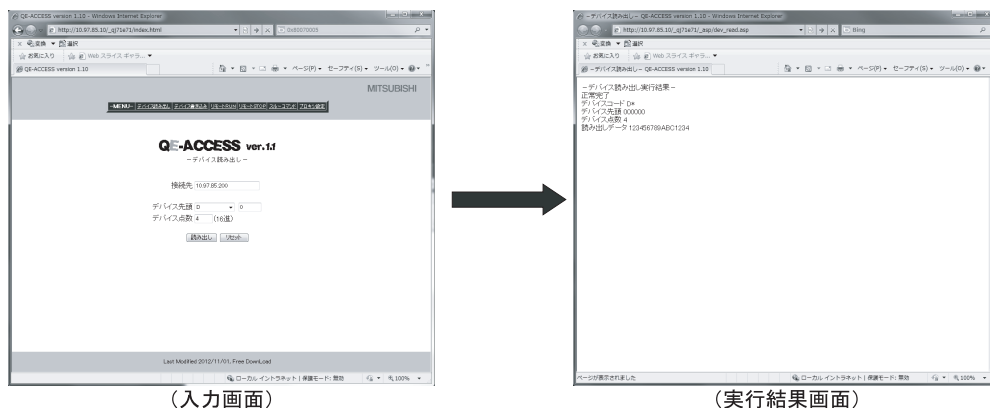
また、ASPファイルによるシーケンサへのアクセス結果を、ユーザ作成のHTMLファイルでWebブラウザに任意に表示させることができます。



- ② Webブラウザでサンプル画面のURLを指定することにより、Ethernetユニット装着局のQ/LCPUに対して、デバイスメモリの読出し／書込み、リモートRUN/STOPなどを行うことができます。

＊ Webブラウザに表示される項目にアクセスデバイス、点数などを入力するだけで、実行結果が表示されます。

(例) データレジスタD0=1234h, D1=5678h, D2=9ABCh, D3=1234hの3点分を読み出す場合



(4) Webサーバの活用

EthernetユニットとWebサーバのコンピュータを組合せることにより、Web機能によるシーケンサへのアクセスが可能になります。

- (a) Webサーバを活用することにより、システムの構築がしやすくなります。

① 複雑な画面が作成可能

ユーザで作成するファイルをWebサーバへ格納することで、Ethernetユニットのメモリに制限されることなく、ユーザ任意の複数のHTMLファイル作成、大容量のHTMLファイルの作成を行うことが可能です。

＊ ホームページを作成する知識があれば、Webブラウザ用のHTMLファイルの作成、変更が容易に行うことが可能です。

② Ethernetユニットの負荷を軽減

シーケンサに対するアクセスプログラム、Webブラウザに対する制御プログラムをWebサーバで実行しますので、シーケンサへアクセスするときのEthernetユニットの負荷を最小限にすることができます。

③ Ethernet回線の分離

EthernetユニットとWebサーバ、WebサーバとWebブラウザを結ぶ回線を分離することで、Webブラウザに対する画面データがEthernetユニットとWebサーバ間の回線に送信されません。

したがって、Ethernetユニットと相手機器との通信に対するシステム制御用データの送受信への影響を少なくすることができます。

- (b) WebサーバとEthernetユニットを分離していますので、システムの拡張が容易になります。

例えば、次のような機能を追加することが可能になります。

外部機器からの不正アクセス（プログラムやデータの破壊など）に対してシーケンサシステムの安全を保つ必要がある場合、Webサーバにファイアウォール機能などを追加することでユーザによる対策を盛り込むことができます。

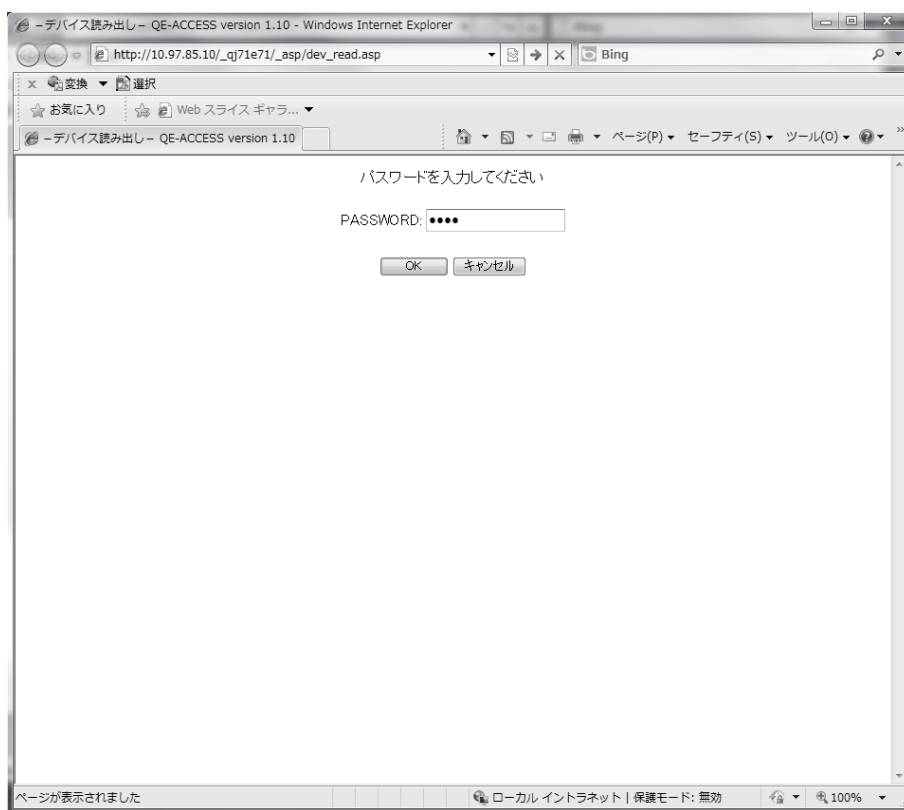
- (c) Webサーバの機能を使って、EthernetユニットとWebサーバ間、WebサーバとWebブラウザ間の通信情報を記録し、メンテナンス用として使用することができます。

(5) リモートパスワードチェック機能

- (a) Ethernetユニットのリモートパスワードチェック機能は、遠隔地のユーザがQ/LCPUへ不正なアクセスを行うことを防止するためのEthernetユニットのチェック機能です。

リモートパスワード機能の詳細については、ユーザズマニュアル（基本編）を参照してください。

- (b) HTTPポートがリモートパスワードチェックの対象コネクシオンに設定されている場合、Webブラウザに表示されるダイアログボックスでリモートパスワードのアンロック処理を行うことで、Q/LCPUへのアクセスが可能になります。



リモートパスワードのロック処理は、Webブラウザ終了時に行われます。

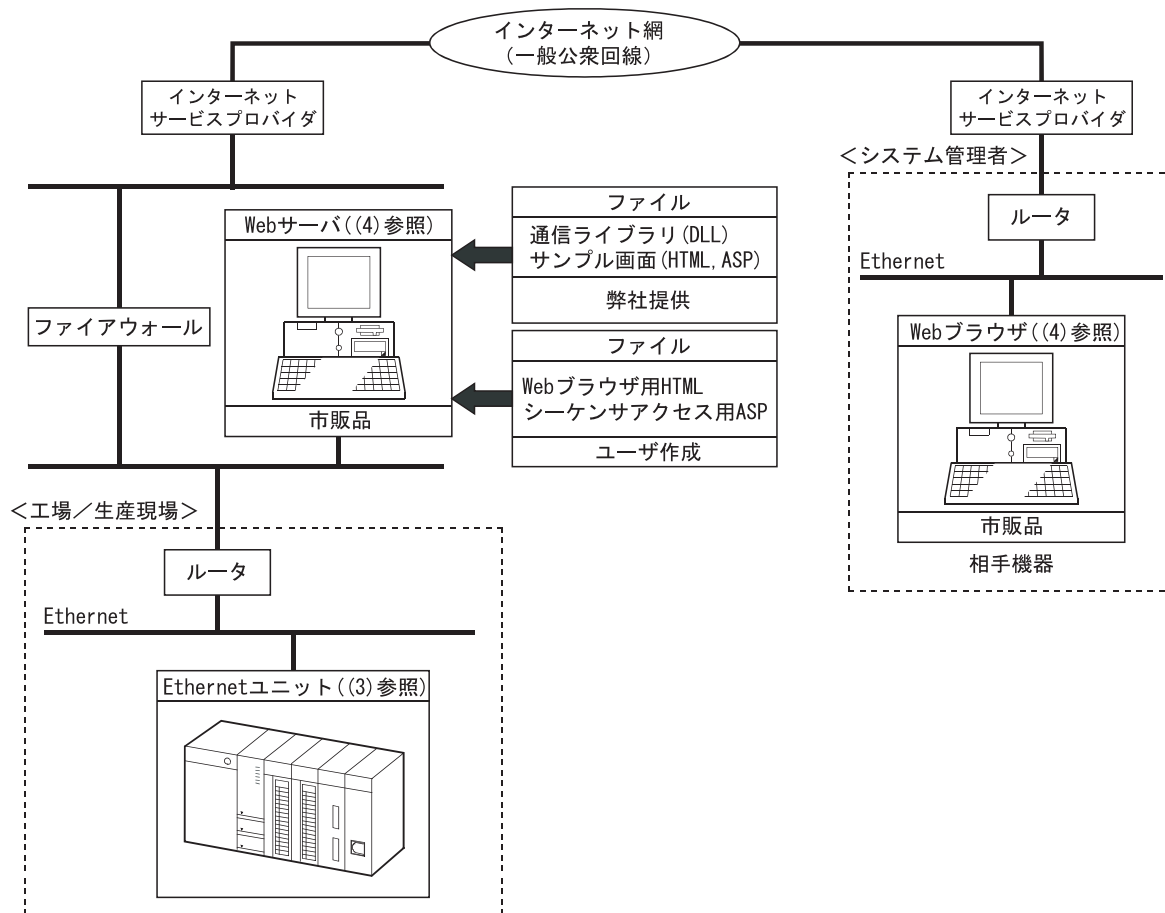
2 システム構成

2.1 システム構成

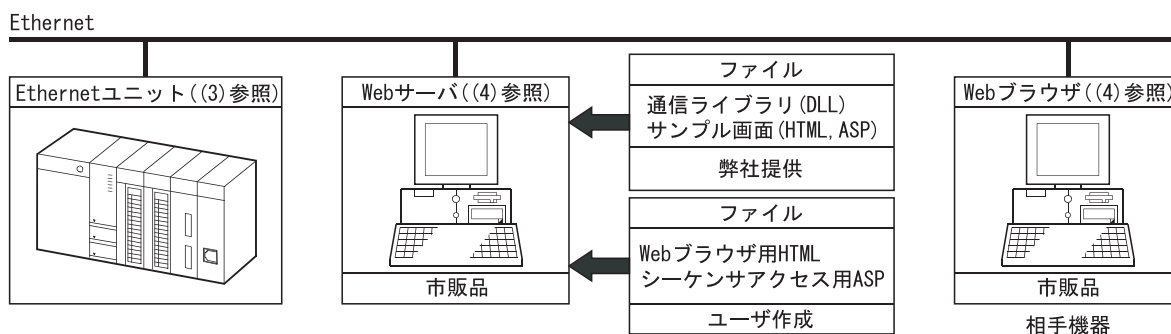
Web機能を使用する環境、システム構成について説明します。

本項では、EthernetユニットのWeb機能を使用するときの、システム構成について説明します。

(1) インターネット経由でアクセスする場合のシステム構成



(2) イン트라ネット経由でアクセスする場合のシステム構成



(3) Ethernetユニット

Web機能を使用できるEthernetユニットを以下に示します。

- ・ QJ71E71-100形Ethernetインタフェースユニット
- ・ QJ71E71-B5形Ethernetインタフェースユニット
- ・ QJ71E71-B2形Ethernetインタフェースユニット
- ・ LJ71E71-100形Ethernetインタフェースユニット

Ethernetユニットの適用システム，ネットワーク構成時に必要な機器については，ユーザズマニュアル（基本編）を参照してください。

(4) Webサーバ，Webブラウザ

EthernetユニットのWeb機能にて使用するサーバとWebブラウザについて，動作環境を以下に示します。

項目	動作環境
Webサーバ	Microsoft® Corporation製Internet Information Services 5.1
	Microsoft® Corporation製Internet Information Services 7.5
	Microsoft® Corporation製Internet Information Services 8.0
Webブラウザ	Microsoft® Corporation製Internet Explorer 8.0以降品

(a) Web機能を使用するには，下記ファイルをWebサーバにセットアップする必要があります。

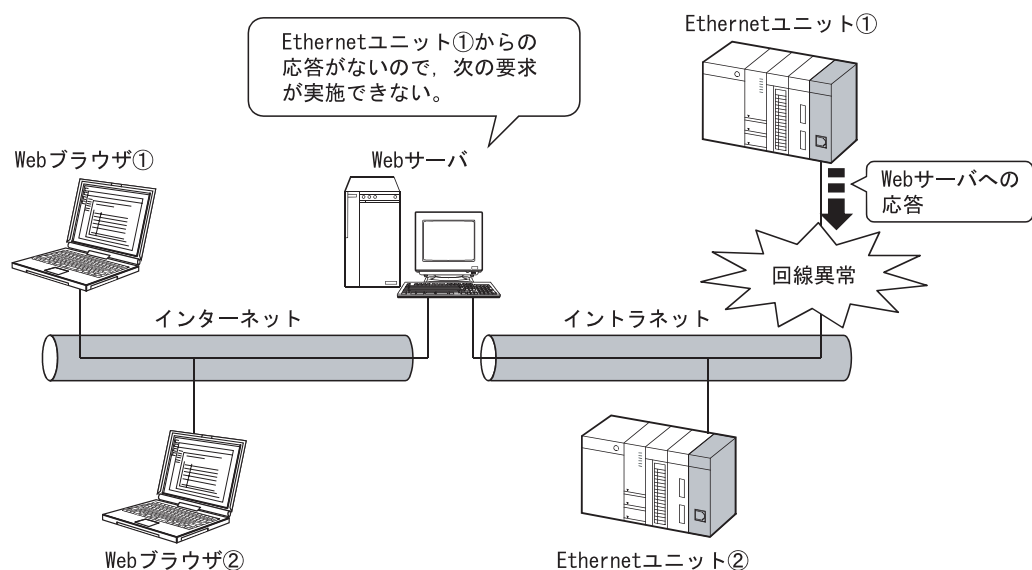
- ・ 通信ライブラリ
- ・ Webブラウザ用HTMLファイル
- ・ シーケンサアクセス用ASPファイル

2.2 Web機能を使用するときの注意事項

(1) システム構成時の注意事項

- (a) インターネットへの接続は、十分な安全対策が必要になります。
ネットワーク接続業者、インターネットサービスプロバイダ、ネットワーク管理者（ネットワークの計画やIPアドレスの管理などを行う人）に相談してください。
インターネット接続時のシステムトラブル上の諸問題に対して、当社は一切責任を負うことができません。
- (b) ネットワーク上にファイアウォールが設置されている場合、HTTPプロトコルが通過できるように設定してください。
- (c) 1台のWebサーバを使用して、複数台のEthernetユニットへアクセスを実施する際、要求開始から応答が返されるまでの間は、次の処理が実施されない場合があります。
このため、回線異常などで応答がない場合、Webサーバ側でタイムアウトするまでの間、次の処理が遅れることがあります。

(例) 1台のWebサーバを使用して、2台のEthernetユニットへアクセスする例



- Webブラウザ①からEthernetユニット①へアクセス
- Webブラウザ②からEthernetユニット②へアクセス

WebサーバとEthernetユニット①間で回線異常が発生していますので、Ethernetユニット①からWebサーバへ応答が返らず、Webサーバで応答待ち状態となり、Webブラウザ②からEthernetユニット②へのアクセス要求がWebサーバで待たされます。

(2) セキュリティに関する注意事項

リモートパスワード機能は、不正アクセスを完全に防止するものではありません。インターネット経由でCPUユニットへアクセスする場合、シーケンサシステムの安全を保つ必要があるときは、ユーザによる対策も盛り込んでください。

不正アクセスにより発生するシステムトラブル上の諸問題に対して、当社は一切その責任を負うことができません。

*** 不正アクセスの対策例**

- ・ファイアウォールを設置する方法
- ・Webサーバによるセキュリティ対策

使用する機器の説明書を参照して、対策を盛り込んでください。

(3) CPUユニットアクセス時の注意事項

- (a) Web機能用のASPファイル、HTMLファイルをユーザで作成する場合は、弊社が提供する通信ライブラリ (QeAccess. dll) を使用してください。

通信ライブラリは、ユーザで作成することができません。

通信ライブラリ関数の詳細については、第6章を参照してください。

- (b) Webサーバには、ファイルのアクセスなどを記録するログ機能があります。シーケンサアクセス用ファイルへのアクセスログを定期的に収集し、アクセス状況の確認を行ってください。

Webサーバへの不正なアクセスログが多くある場合は、ユーザにて対策、処置してください。

- (c) Web機能を使用してEthernetユニットへアクセスするとき、同時アクセス可能数は最大4コネクションです。

同時アクセス可能数を越えた場合は、通信ライブラリ関数からタイムアウトエラーが返されます。

タイムアウトエラーが発生時は、アクセス間隔時間を延ばしてリトライしてください。

3 操作手順

3.1 Web機能を使用して交信するまでの概略手順

Web機能を使用してWebサーバからシーケンサへアクセスするまでの概略手順を示します。

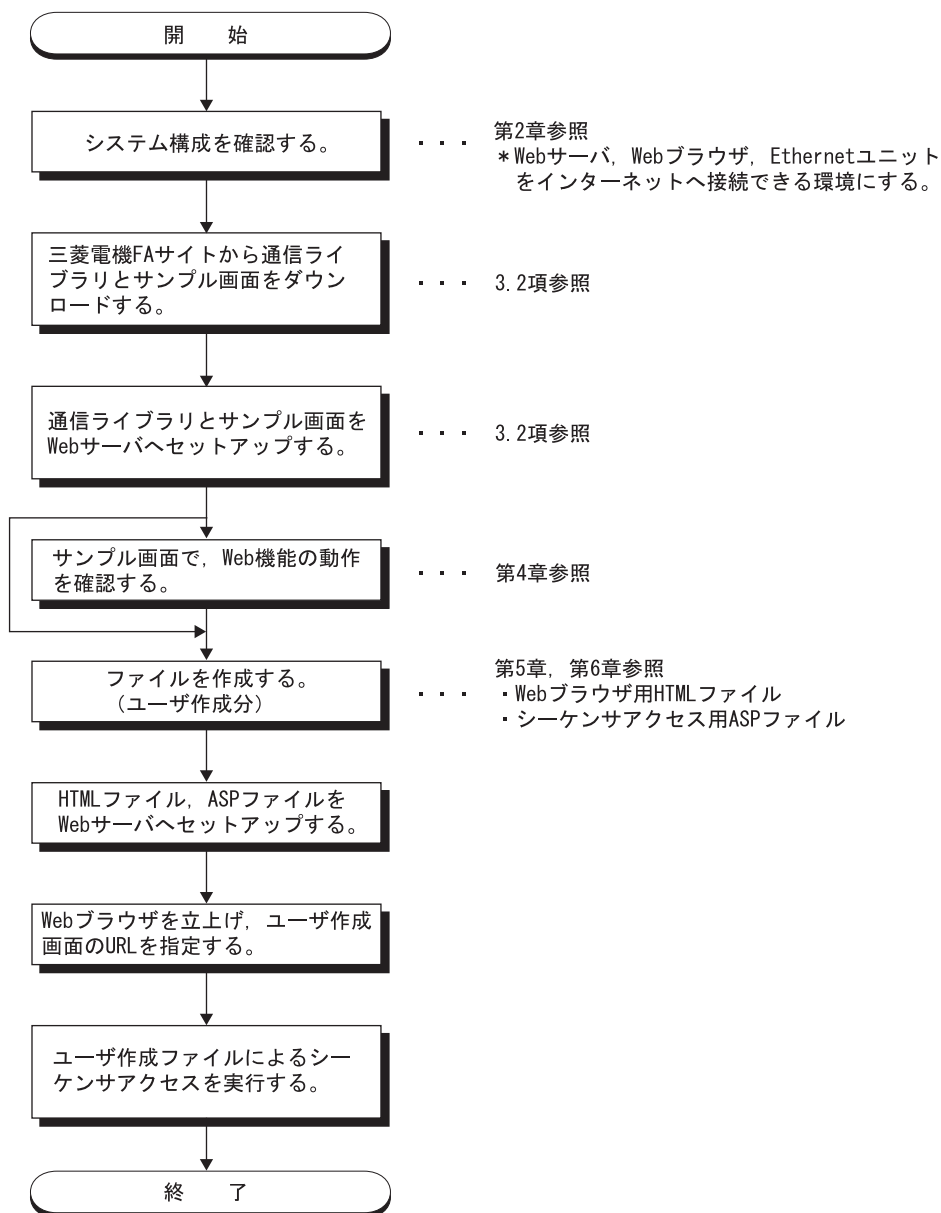
(1) Ethernetユニット側の設定

Ethernetユニット装着局を立ち上げてください。

(正常動作時は、Ethernetユニット前面の[INIT.]LEDが点灯します。)

詳細については、ユーザズマニュアル（基本編）を参照してください。

(2) 相手機器側の設定（Webサーバ、Webブラウザ）



3.2 通信ライブラリ，サンプル画面のダウンロード，セットアップ

通信ライブラリ，サンプル画面のダウンロードとWebサーバへのセットアップ手順を説明します。

(1) ダウンロード

三菱電機FAサイトから，EthernetインタフェースユニットWeb機能用サンプルファイルをダウンロードします。

お使いのパソコンのOSによりダウンロードするファイルが下記により異なりますので注意してください。

OS	Web機能用サンプルファイル
32ビット版	qeaccess-32.zip
64ビット版	qeaccess-64.zip

三菱電機FAサイトホームページアドレス

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/fa/>

【三菱電機FAサイトに関する注意事項】

- ・ダウンロードするときは，三菱電機FAサイトへのID登録が必要です。

ポイント	
三菱電機FAサイトから，ダウンロードしたファイルは，Q/L共用で使用できます。	

(2) セットアップ

三菱電機FAサイトからダウンロードしたファイルをWebサーバへセットアップします。

ポイント

Webサーバには、Webサーバソフトウェアがインストールされている必要があります。動作環境については、2.1項を参照してください。

(手順1) ダウンロードファイルの解凍

ダウンロードされた圧縮ファイルを任意のフォルダに移動して解凍してください。

解凍後のファイル構成を以下に示します。

解凍後のフォルダ（_qj71e71）は、Q/L共用で使用できます。

フォルダ名	ファイル名	備 考
 _qj71e71	dev_read.html dev_write.html foot.html index.html menu.html proxy_set.html req_cmd.html rmt_run.html rmt_stop.html	サンプル画面用 ・HTMLファイル
 _asp	dev_read.asp dev_write.asp proxy_set.asp req_cmd.asp rmt_run.asp rmt_stop.asp	サンプル画面用 ・ASPファイル
 _dll	QeAccess.dll	通信ライブラリ ・DLLファイル
 _img	mitsubishi.gif qeaccess_logo.gif	サンプル画面用 ・画像ファイル

(手順2) ダウンロードファイルのコピー

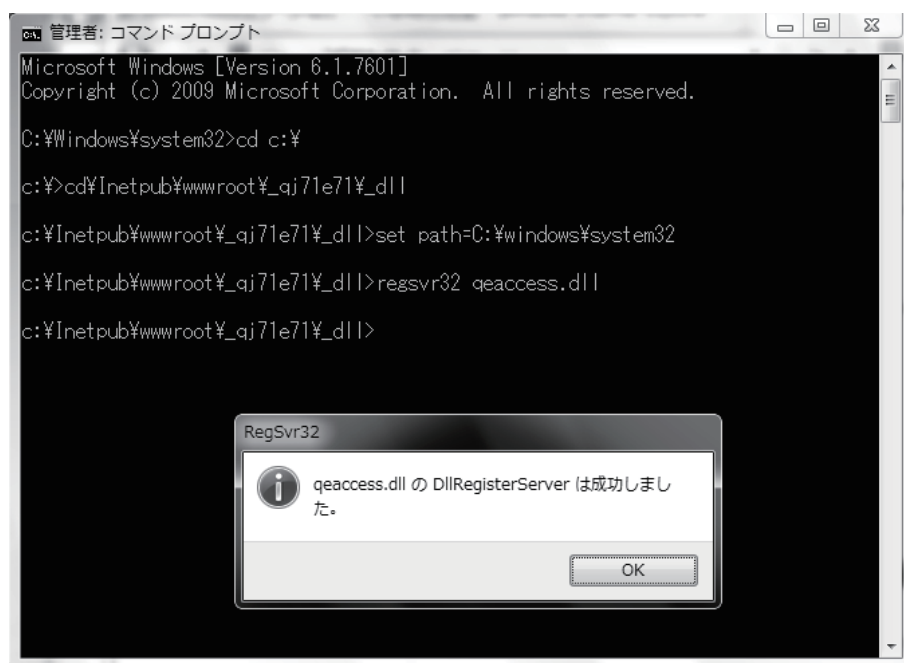
解凍したフォルダ（_qj71e71）をWebサーバのルートフォルダ“¥Inetpub¥wwwroot”の下へコピーします。

(手順3) 通信ライブラリ (DLLファイル) の登録

WebサーバのOSのレジストリに、DLLファイルを登録します。
以下にコマンドプロンプトでの登録方法を示します。

- ① Webサーバでコマンドプロンプトを開きます。
- ② カレントディレクトリを切り換えます。
C:¥> cd¥Inetpub¥wwwroot¥_qj71e71¥_dll
- ③ Windows用コマンドregsvr32のディレクトリのパスを入力します。
set path = C:¥windows¥system32
- ④ Windows用コマンドregsvr32で通信ライブラリのDLLを登録します。
C:¥> ¥Inetpub¥wwwroot¥_qj71e71¥_dll> regsvr32 qeaccess.dll

(例) ルートディレクトリがCドライブにある場合



(手順4) すべての設定が終了後、Webサーバを再立上げします。

備 考

セットアップしたファイルを削除するときは、ルートフォルダ “¥Inetpub¥wwwroot” の_qj71e71フォルダ以下をすべて削除してください。

4 サンプル画面を使用してWeb機能の動作を確認する

サンプル画面を使用してWeb機能によるCPUユニットへのアクセスを行う方法について説明します。

4.1 サンプル画面の機能

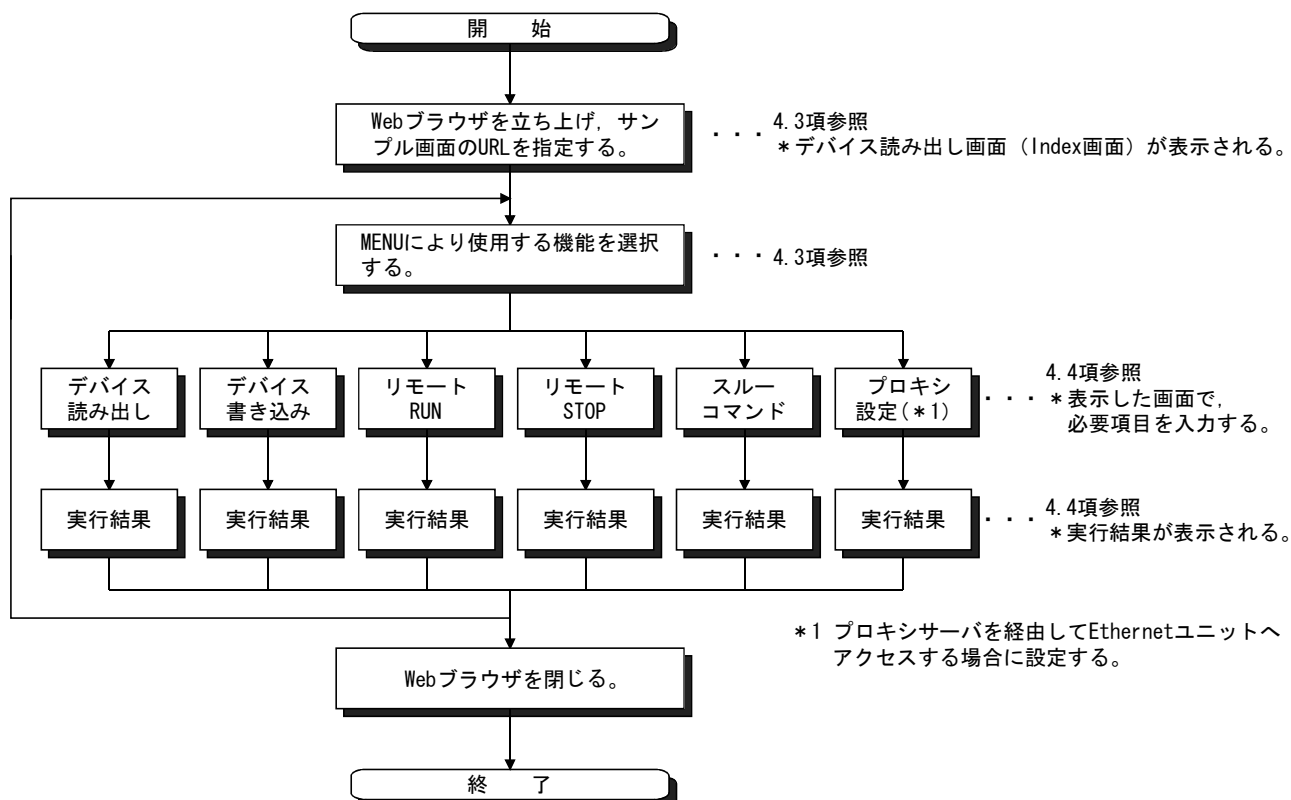
サンプル画面で動作を確認できるWeb機能の一覧を以下に示します。

機 能	ファイル名	機能概要
デバイス読み出し	dev_read.html	ビットデバイス (X, Y, Mなど) を16点単位で読み出す。
		ワードデバイス (D, R, T, Cなど) を1点単位で読み出す。
デバイス書き込み	dev_write.html	ビットデバイス (X, Y, Mなど) へ16点単位で書き込む。
		ワードデバイス (D, R, T, Cなど) へ1点単位で書き込む。
リモートRUN	rmt_run.html	CPUユニットに対してリモートRUN要求する。
リモートSTOP	rmt_stop.html	CPUユニットに対してリモートSTOP要求する。
スルーコマンド	req_cmd.html	入力した1つのMCプロトコルのアプリケーションデータ (サブヘッダ+テキスト) を送信する。
プロキシ設定	proxy_set.html	プロキシサーバ経由でEthernetユニットを接続する場合、プロキシサーバを指定する。

4.2 操作手順

サンプル画面からCPUユニットへアクセスするときの操作手順を示します。

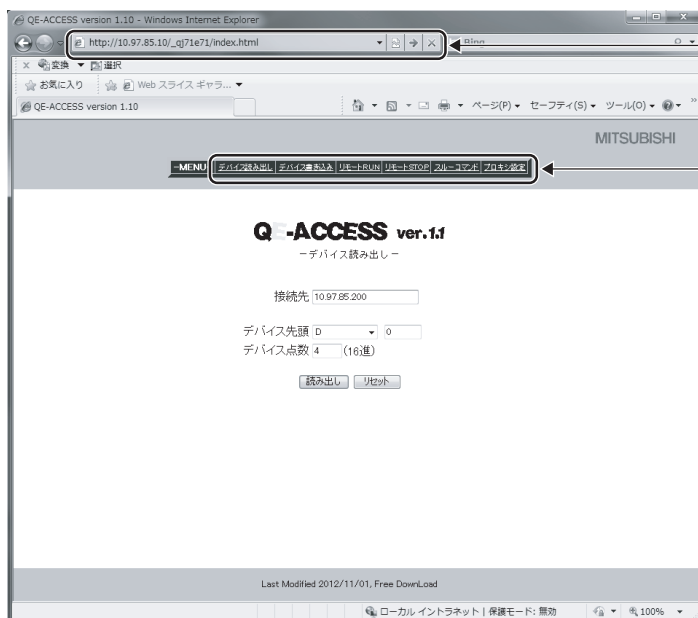
サンプル画面、通信ライブラリは、Webサーバにあらかじめセットアップしておいてください。(第3章参照)



4.3 サンプル画面説明

サンプル画面の各機能の操作について示します。

(1) 設定画面



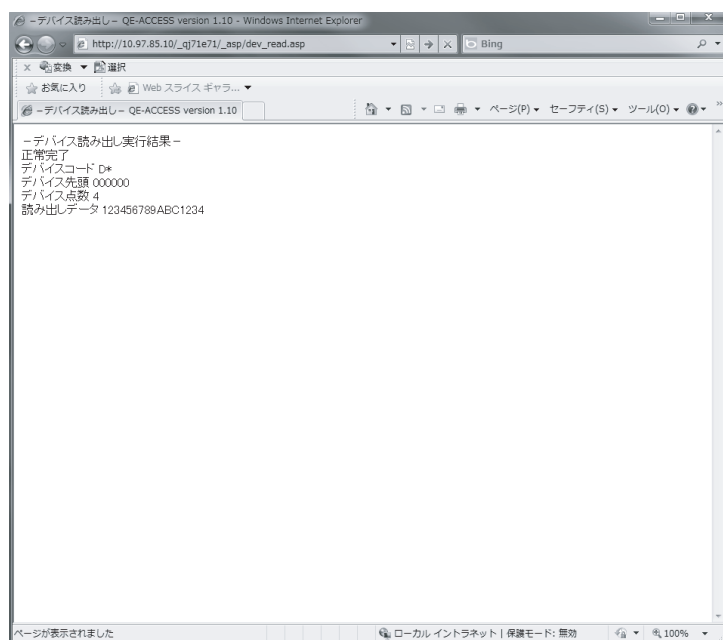
① Webブラウザを起動してサンプル画面のURLを指定する。
(例) Webサーバのホスト名がqe_servの場合
http://qe_serv/_qj71e71/index.html

② MENUにて使用する機能を選択する。

③ 各機能画面で、必要な項目を入力して、実行する。
(例) デバイス読み出し選択時の表示内容

4

(2) 実行結果画面



① 新規画面に実行結果が表示される。
(正常完了時)
実行結果が表示される。

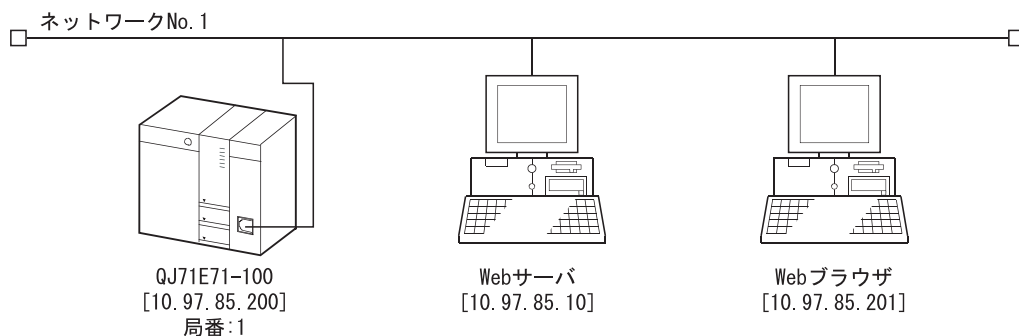
(異常完了時)
エラーコードが表示される。
* ユーザーズ (基本編)
トラブルシューティング参照

4.4 サンプル画面によるデータ交信例

サンプル画面を使用してCPUユニットへアクセスするときの方法を示します。

(1) システム構成例

データ交信するときのシステム構成を示します。（プロキシ設定の説明は除く。）



(2) データ交信例の実行環境（Ethernetユニット側）

(a) Ethernetユニットを基本ベースユニットの“0”スロットに装着します。

(b) プログラミングツールによるEthernet用パラメータの設定を行います。
下記以外の設定項目については、デフォルトを使用します。

① ネットワークパラメータ

設定画面	設定項目	設定内容
ネットワークパラメータ Ethernet/CC IE/MELSECNET 枚数 設定	ネットワーク種別	Ethernet
	先頭I/O No.	0000
	ネットワークNo.	1
	グループNo.	1
	局番	1
動作設定	IPアドレス	[10.97.85.200]

② リモートパスワード

設定画面	設定項目名	設定内容
リモートパスワード設定	パスワード設定	*****
	パスワード有効 形名	QJ71E71
	ユニット設定 先頭X/Y	0000
リモートパスワード詳細設定	システム用コネクション有効 設定	“HTTPポート” をチェック

(c) データレジスタD0～D3へデータを書き込む。



(d) CPUユニットへEthernet用パラメータとプログラムを書き込み，CPUユニットの再立上げを行います。

正常動作時は，Ethernetユニットのイニシャル処理が正常完了し，[INIT.]LEDが点灯します。

(3) データ交信例の実行環境（相手機器側）

(a) Webサーバ

- ① 通信ライブラリとサンプル画面をセットアップします。（3.2項(2)参照）
- ② OSのレジストリにDLLファイルを登録します。（3.2項(2)参照）
すでに登録されている場合は、本登録操作は不要です。
- ③ すべての設定が終了後、Webサーバを再立上げします。

(b) Webブラウザ

Webブラウザを起動します。

(4) データ交信の実行

(a) サンプル画面のURLの表示

Webブラウザに、サンプル画面のURLを指定します。

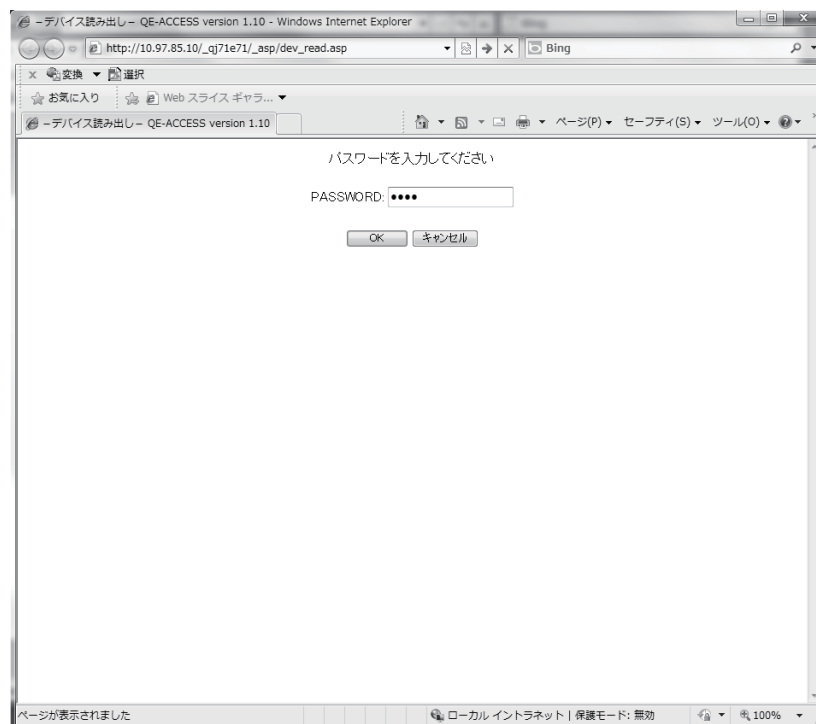
http://10.97.85.10/_qj71e71/index.html

(b) リモートパスワードのアンロック

Webサーバとのデータ交信で使用するEthernetユニットのポートがリモートパスワードチェックの対象になっているときは、CPUユニットへのアクセスを開始したときに、下記ダイアログが表示されます。

リモートパスワードを入力し、アンロック処理を行ってください。

* Ethernetユニットのポートがリモートパスワードチェックの対象になっていないときは、本操作が不要です。（下記ダイアログも表示されません。）



(c) データ交信

データ交信例については、4.4.1項以降を参照してください。

(d) データ交信の終了

Webブラウザを閉じます。

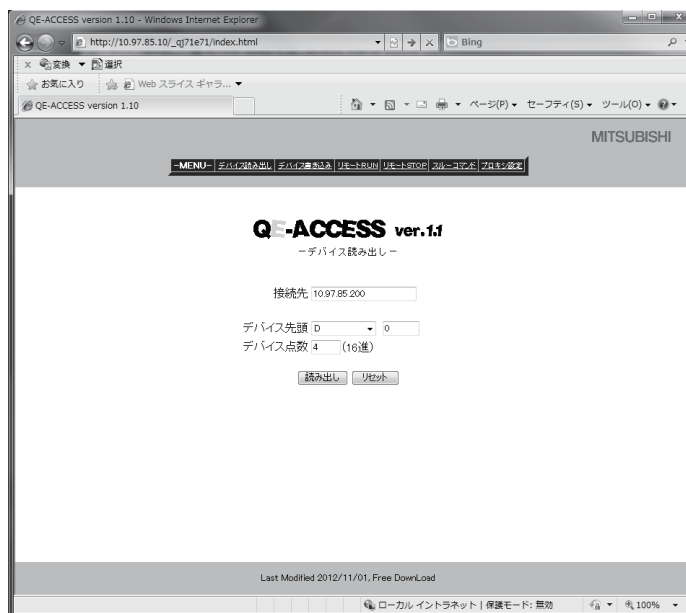
4.4.1 デバイス読み出し／書き込み

自局CPUユニットのビットデバイスメモリ（16ビット単位）、ワードデバイスメモリ（1ワード単位）の一括読み出し／書き込み（QnA互換3Eフレームのコマンド：0401/1401）を行います。

MCプロトコルの詳細については、リファレンスマニュアルを参照してください。

本項では、データレジスタD0～D3の4点分を読み出す場合の例で説明します。

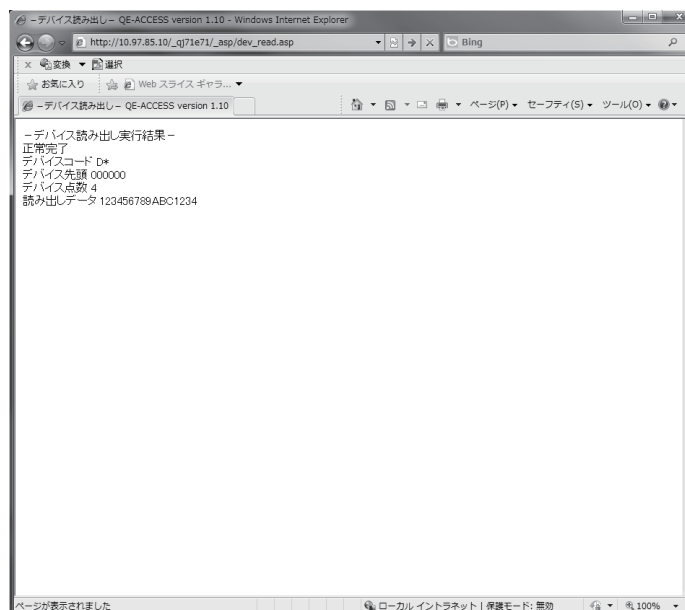
(1) デバイス読み出し画面



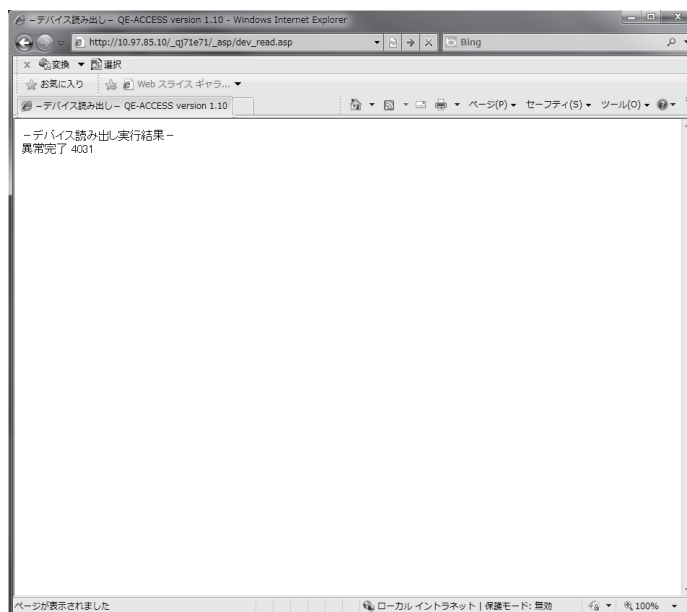
設定項目	設定値
接続先	10.97.85.200
デバイス先頭	D0
デバイス点数	4

(2) 実行結果

(a) 正常完了時



(b) 異常完了時



(3) 設定項目

デバイス読み出し／書き込み画面の設定項目について説明します。

(a) 接続先（文字列）

接続先EthernetユニットのIPアドレスまたはホスト名を指定します。

（例）IPアドレスで指定する場合 10.97.85.200

(b) デバイス先頭

データを読み出し／書き込みするデバイスのデバイスコードと先頭デバイスを指定します。

① デバイスコード（選択）

デバイスメモリを選択します。

② 先頭デバイス（文字列）

データを読み出し／書き込みするデバイスメモリの先頭番号を指定します。

先頭デバイスの番号は、対象デバイスメモリにより10進数／16進数で指定します。

（例）データレジスタD100を指定する場合、デバイスコード“D”を選択し、先頭デバイスに“100”を指定します。

（例）リンクレジスタW1FFを指定する場合、デバイスコード“W”を選択し、先頭デバイスに“1FF”を指定します。

(c) デバイス点数（文字列）

読み出し／書き込みを行うデバイスの点数（16進数）を指定します。

（例）デバイス点数に20点を指定する場合，“14”を指定します。

(d) 読み出しデータ／書き込みデータ（文字列）（(4)を参照）

① 読み出しデータ（実行結果画面）

指定デバイスメモリから読み出したデバイス点数分のデータ内容を示します。

② 書き込みデータ

デバイスに書き込むデータを、デバイス点数分指定します。

(4) 読み出しデータ／書き込みデータの並びについて

デバイス読み出し／書き込みで扱われるビットデバイスデータ，ワードデバイスデータの伝送方法，伝送時の並びの考え方について説明します。

サンプル画面のデバイス読み出し／書き込みは，ワード単位でデータを扱います。

(a) ビットデバイスメモリの読み出し／書き込みする場合

1ワードを4ビット単位で上位ビットから順に16進数で表現します。

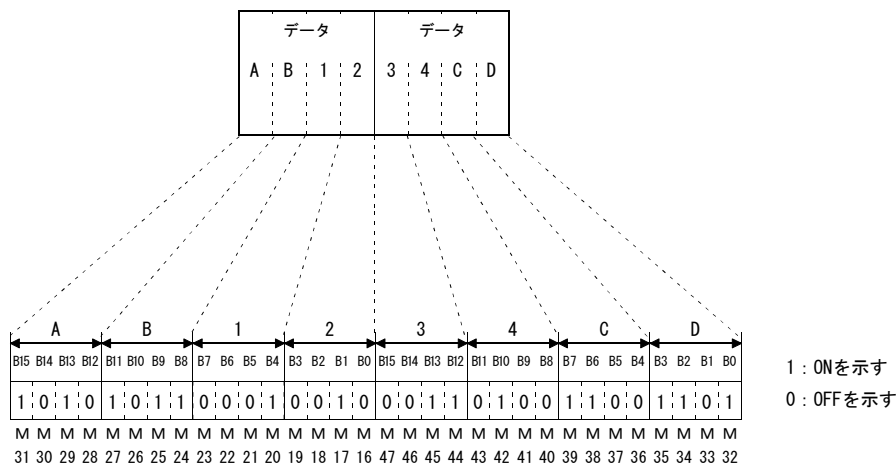
(例) 内部リレーM16から32点にデータを書き込む場合

(データ読出し時は，内部リレーM16から32点を指定した場合のデータ内容 (ON/OFF状態) を示します。)

各設定項目を以下のように指定します。

- ・デバイスコード： “M” を選択します。
- ・先頭デバイス： “16” を指定します。
- ・デバイス点数： “2” を指定します。
- ・書き込みデータ： “AB1234CD” を指定します。

以下に示すデータが書き込まれます。(デバイス読出し時は，読み出されます。)



(b) ワードデバイスメモリの読み出し／書き込みする場合

ワードデバイスメモリは1ワードを4ビット単位で上位ビットから順に16進数で表現します。

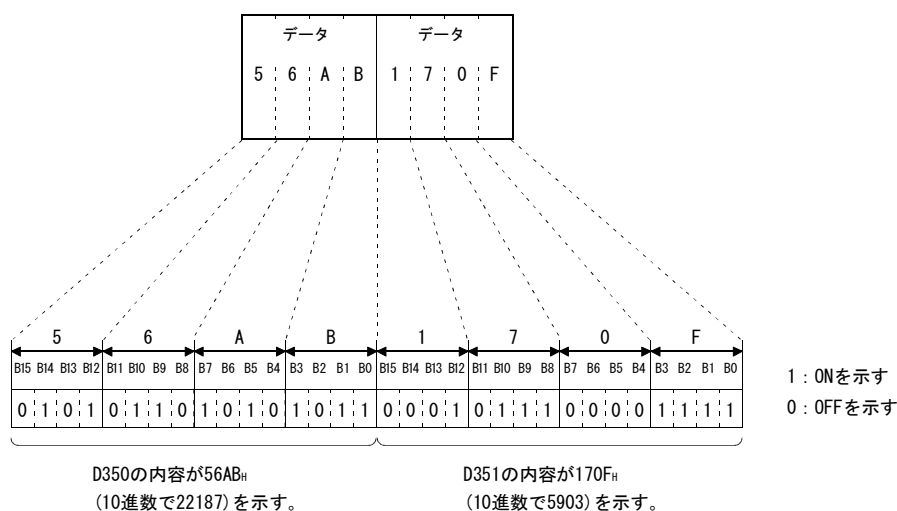
(例) データレジスタD350, D351にデータを書き込む場合

(データ読み出し時は、データレジスタD350, D351を指定した場合のデータ内容を示します。)

各設定項目を以下のように指定します。

- ・デバイスコード : “D” を選択します。
- ・先頭デバイス : “350” を指定します。
- ・デバイス点数 : “2” を指定します。
- ・書き込みデータ : “56AB170F” を指定します。

以下に示すデータが書き込まれます。(デバイス読み出し時は、読み出されます。)



ポイント

データを読み出すワードデバイスメモリに整数以外(実数, 文字列)が格納されている場合, Ethernetユニットは格納値を整数値として読み出します。

(例1) D0～D1に実数(0.75)が格納されている場合, 次の整数値で読み出されます。

“00003F40” (D0=0000_H, D1=3F40_H)

(例2) D2～D3に文字列(“12AB”)が格納されている場合, 次の整数値で読み出されます。

“32314241” (D2=3231_H, D3=4241_H)

4.4.2 リモートRUN/STOP

自局CPUユニットのリモートRUN/STOP (QnA互換3Eフレームのコマンド1001/1002) を行います。

MCプロトコルの詳細については、リファレンスマニュアルを参照してください。
本項では、リモートRUNを行う場合の例で説明します。

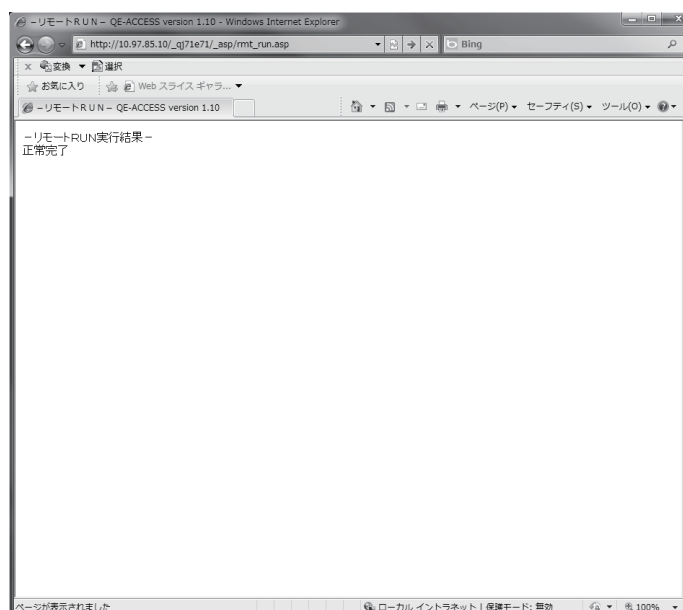
(1) リモートRUN画面



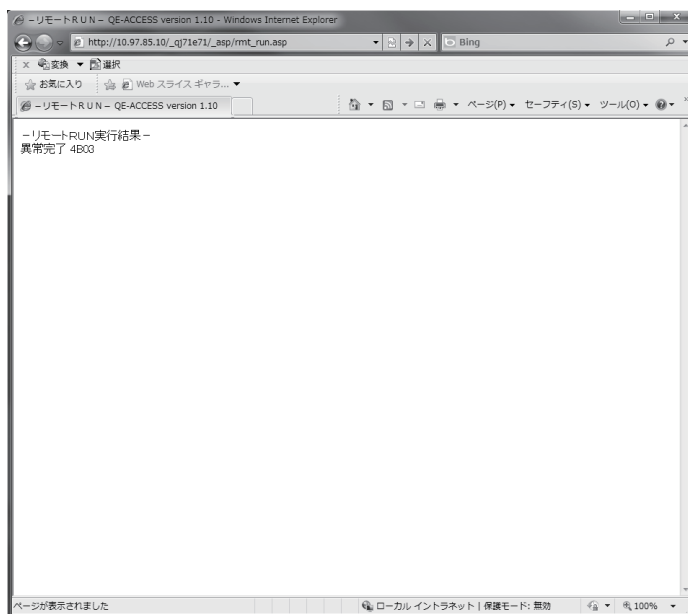
設定項目	設定値
接続先	10.97.85.200
動作モード	強制実行しない
クリアモード	クリアしない

(2) 実行結果

(a) 正常完了時



(b) 異常完了時



(3) 設定項目

リモートRUN/STOP画面の設定項目について説明します。

(a) 接続先 (文字列)

接続先EthernetユニットのIPアドレスまたはホスト名を指定します。

(例) IPアドレスで指定する場合 10.97.85.200

(b) 対象CPU番号 (選択)

リモートRUN/STOPを行う対象CPUを選択します。

* QCPUのシングルCPUシステムまたはLCPUに対してリモートRUN/STOPを行う場合は、管理CPUを指定してください。

(c) 動作モード (選択)

リモートRUNを強制実行させるか否かを選択します。

① 強制実行しない

他の相手機器からリモートSTOPしているとき、リモートRUNしない。

② 強制実行する

他の相手機器からリモートSTOPしていても、リモートRUNする。

(d) クリアモード (選択)

リモートRUNによるCPUユニットの演算開始時の、CPUユニットのデバイスクリアのクリア (初期化) 処理を指定します。

① クリアしない

デバイスメモリをクリアしない。

② ラッチ範囲を除きクリアする

ラッチ範囲外のデバイスメモリをクリアする。

③ 全エリアをクリアする

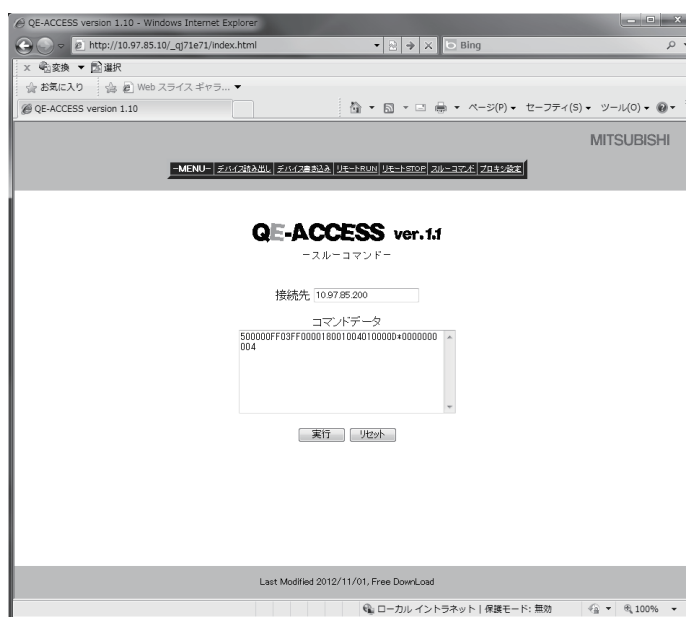
ラッチ範囲も含む全デバイスメモリをクリアする。

4.4.3 スルーコマンド

MCプロトコル (QnA互換3Eフレーム) のアプリケーションデータを入力してCPUユニットへアクセスします。

本項では、QnA互換3Eフレーム用のデバイスメモリ一括読出し (コマンド: 0401) のアプリケーションデータを指定して、データレジスタD0～D3の4点分を読み出す方法を説明します。

(1) スルーコマンド画面



設定項目	設定値
接続先	10.97.85.200
コマンドデータ	500000FF03FF000018001004010000D*0000000004

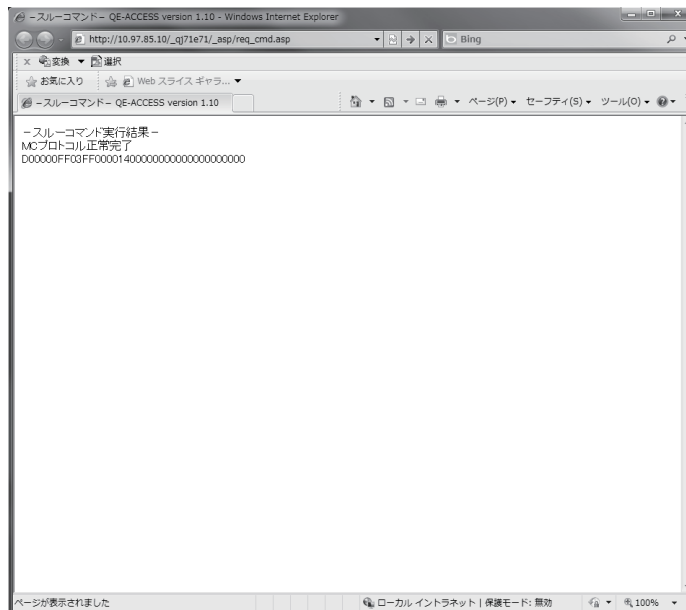
(例) コマンドデータに相当するMCプロトコルのアプリケーションデータのフォーマット例を示します。

→ テキスト (コマンド)																													
サブヘッダ		Qヘッダ												コマンド		サブコマンド		デバイスコード		先頭デバイス				デバイス点数					
		ネットワーク番号		PC番号		I/O番号		要求先ユニット		局番号		要求先ユニット																要求データ長	
H	L	H	L	H	—	—	L	H	L	H	—	—	L	H	—	—	L	H	—	—	—	—	L	H	—	—	—	L	
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	0	1	0	0	4	0	1	D	*	0	0	0	0	0	0
35h	30h	30h	30h	30h	30h	46h	46h	30h	33h	30h	30h	31h	38h	30h	30h	31h	30h	30h	34h	30h	31h	44h	2Ah	30h	30h	30h	30h	30h	34h

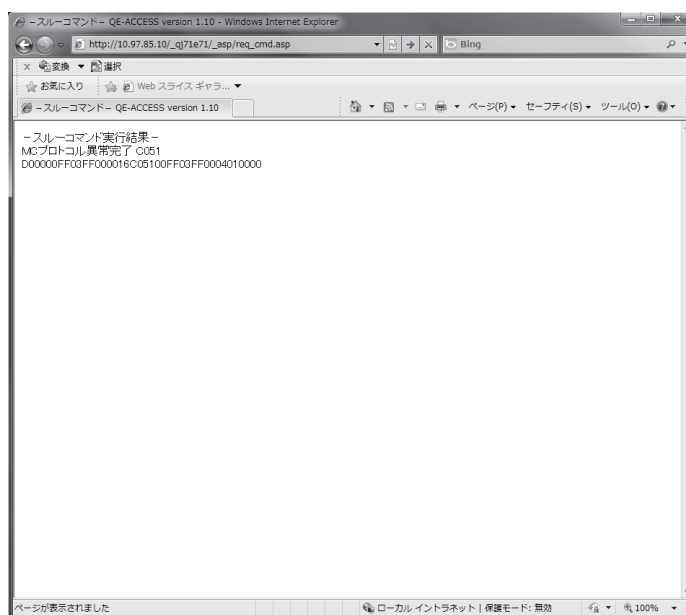
* この部分をコマンドデータに指定する。

(2) 実行結果

(a) 正常完了時



(b) 異常完了時



(3) 設定項目

スルーコマンド画面の設定項目について説明します。

(a) 接続先 (文字列)

接続先EthernetユニットのIPアドレスまたはホスト名を指定します。

(例) IPアドレスで指定する場合 10.97.85.200

(b) コマンドデータ (文字列)

MCプロトコルのアプリケーションデータをASCIIコードで送信する場合の設定と同じ文字列で指定します。

MCプロトコルの詳細については、リファレンスマニュアルを参照してください。

(4) スルーコマンドを使用時の注意事項

(a) 使用できる送信フレーム

QnA互換3Eフレーム用コマンドのアプリケーションデータを指定することができます。

4EフレームおよびA互換1Eフレーム用コマンドを指定することはできません。

(b) 1回に指定できるコマンド数

1回に指定できるコマンドは、1つのみです。

複数のコマンドを連続して指定することはできません。

(c) リモートパスワードアンロック/ロック (コマンド: 1630/1631)

リモートパスワードアンロック/ロック (コマンド: 1630/1631) を行うことができません。

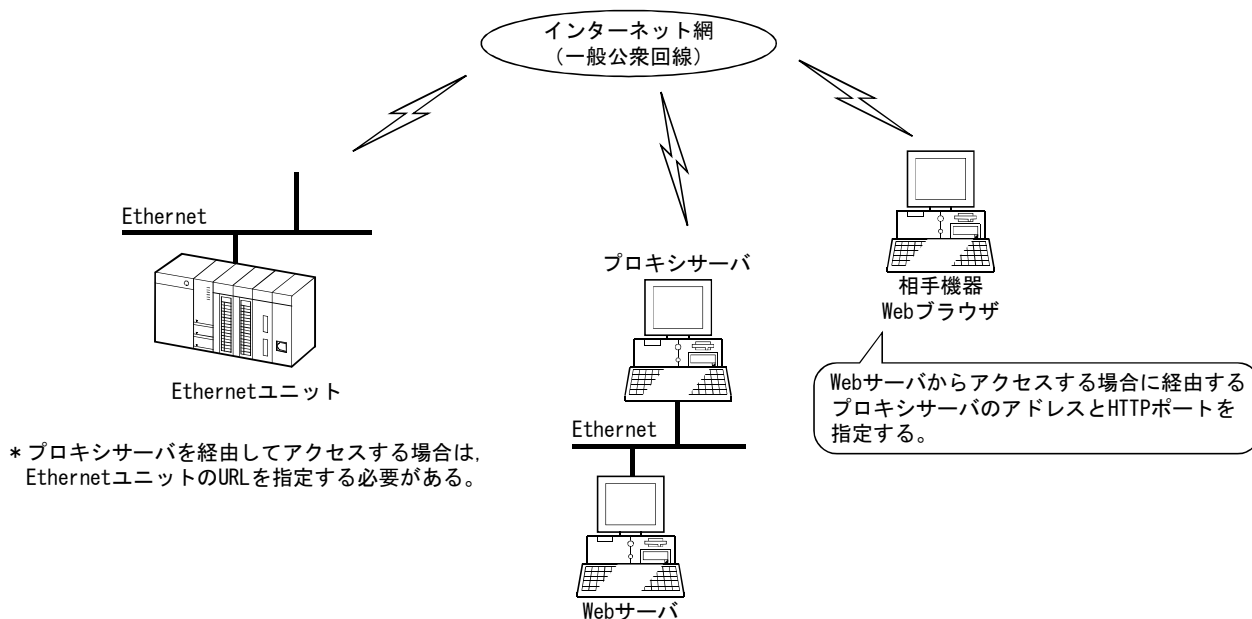
HTTPポートに対するリモートパスワードのアンロック処理は、CPUユニットへのアクセス時にWebブラウザに表示されるダイアログボックスで行います。

(1章(5)参照)

4.4.4 プロキシ設定

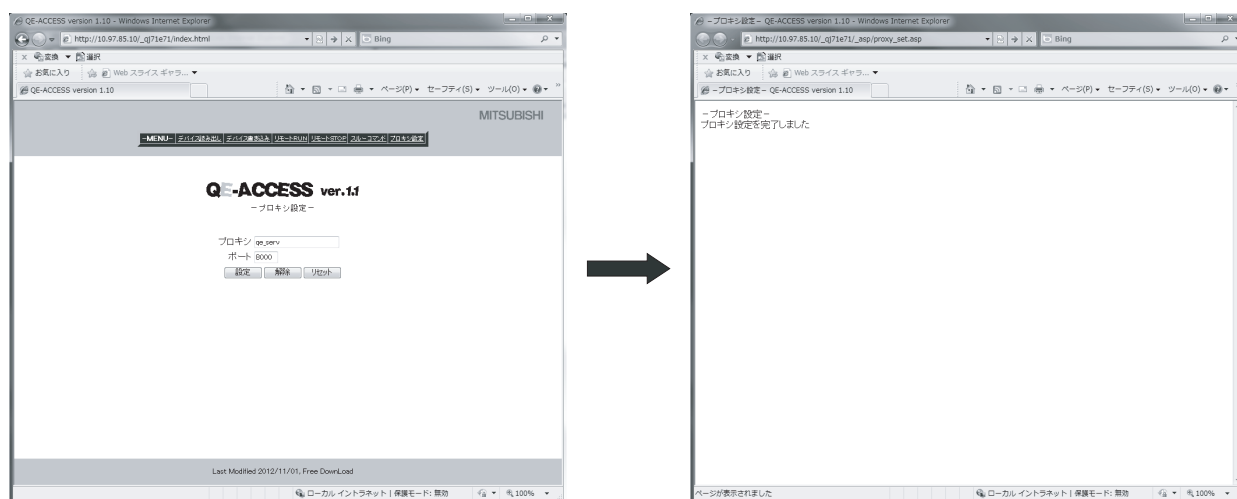
プロキシサーバ経由でEthernetユニットを接続する場合、WebサーバからEthernetユニットへアクセスする場合に経路するプロキシサーバのアドレスとHTTPポートを指定します。

プロキシサーバを経由する場合は、EthernetユニットのURLを設定しておいてください。



(1) プロキシ設定

(例) プロキシサーバ (qe_serv) のポート8000を設定する場合



(2) プロキシ解除



(3) 設定項目

プロキシ設定画面の設定項目について説明します。

プロキシサーバのIPアドレス，使用するポートについては，ネットワーク管理者（ネットワークの計画やIPアドレスの管理などをする人）に相談の上，設定してください。

(a) プロキシ（文字列）

経由するプロキシサーバのIPアドレスまたはホスト名を指定します。

（例）IPアドレスで指定する場合 10.97.85.1

(b) ポート（文字列）

使用するポートを指定します。

4.5 サンプル画面のファイル構成

Webブラウザ用HTMLファイル、シーケンサアクセス用ASPファイルの構成をサンプル画面のデバイス読み出し画面を用いて示します。

通信ライブラリの関数については、第6章を参照してください。

(デバイス読み出し画面)



HTMLファイル (dev_read.html)

```
<HTML>
<TITLE>
ーデバイス読み出しー QE-ACCESS version 1.10
</TITLE>
<BODY BGCOLOR="#FFFFFF"><BR>
<CENTER>
<IMG SRC=_img/qeaccess_logo.gif><BR>
<TT>ーデバイス読み出しー</TT><BR>
```

```
<FORM ACTION="_asp/dev_read.asp" METHOD="POST" TARGET="_BLINK"><BR>
```

(送信先の指定)

```
<TABLE BORDER="0" WIDTH="300">
<TR>
<TD WIDTH="100" ALIGN="RIGHT">接続先</TD>
<TD WIDTH="200" COLSPAN="2"><INPUT TYPE="TEXT" SIZE="26" NAME="iHostName"></TD>
</TR>
```

:

```
<INPUT TYPE="SUBMIT" VALUE="読み出し">
```

(ASPファイルの実行)

```
<INPUT TYPE="RESET" VALUE="リセット">
</CENTER>
</BODY>
</HTML>
```

①

① ↓

ASPファイル (dev_read.asp)

```

<%@ LANGUAGE="VBScript" %>
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>ーデバイス読み出しー QE-ACCESS version 1.10</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<!入力データを取得する>
<%
HostName = Request.Form("iHostName")
DevCode = Request.Form("iDevCode")
DevNo = Request.Form("iDevNo")
DevNum = Request.Form("iDevNum")
PassWord = Request.Form("iPassWord")
PassInf = Request.Form("iPassInf")
PassCnt = Request.Form("iPassCnt")
%>
<!デフォルト値を設定する>
<%
NetNo = "00"
PcNo = "FF"
CpuTime = "0028"
RetType = "0"
%>
<!DLLを呼び出す>
<%
Set Object = Server.CreateObject("QeAccess.McProtocol")
disp = Object.DevRead( HostName, NetNo, PcNo, CpuTime, DevCode, DevNo, DevNum, PassWord, RetType )
%>
<!実行結果を表示する(ハズワードエラー時はハズワード入力処理を行う)>
<%
If InStr( disp, "<!HTTP error 401)" <> 0 Then
    If PassCnt < 3 Then
        If PassInf <> "キャンセル" Then
            Response.Write("<CENTER>")
            Response.Write("<P>パスワードを入力してください")
            Response.Write("<FORM ACTION='dev_read.asp' METHOD='POST' TARGET='_BLINK'>")
            Response.Write("<TABLE>")
            Response.Write("<TD VALIGN='middle'>PASSWORD:</TD><TD><INPUT TYPE='PASSWORD'")
            Response.Write("<SIZE='20' NAME='iPassWord'></TD>")
            Response.Write("</TABLE>")
            Response.Write("<P>")
            Response.Write("<TABLE>")
            Response.Write("<TD>")
            Response.Write("<INPUT TYPE='SUBMIT' NAME='iPassInf' VALUE='OK'>")
            Response.Write("</TD>")
            Response.Write("<TD>")
            Response.Write("<INPUT TYPE='SUBMIT' NAME='iPassInf' VALUE='キャンセル'>")
            Response.Write("</TD>")
            Response.Write("</TABLE>")
            Response.Write("<INPUT TYPE='hidden' NAME='iHostName' VALUE=' & HostName &'>")
            Response.Write("<INPUT TYPE='hidden' NAME='iDevCode' VALUE=' & DevCode &'>")
            Response.Write("<INPUT TYPE='hidden' NAME='iDevNo' VALUE=' & DevNo &'>")
            Response.Write("<INPUT TYPE='hidden' NAME='iDevNum' VALUE=' & DevNum &'>")
            Response.Write("<INPUT TYPE='hidden' NAME='iPassCnt' VALUE=' & PassCnt+1 &'>")
            Response.Write("</FORM>")
            Response.Write("</CENTER>")
        Else
            Response.Write(disp)
        End If
    Else
        Response.Write(disp)
    End If
Else
    Response.Write(disp)
End If
%>
</BODY>
</HTML>

```

(オブジェクトの作成(通信ライブラリの呼出し))

(デバイス読み出しの実行)

(実行結果画面)

リモートパスワードに関する記述

5 シーケンサアクセス用ファイルの作成例

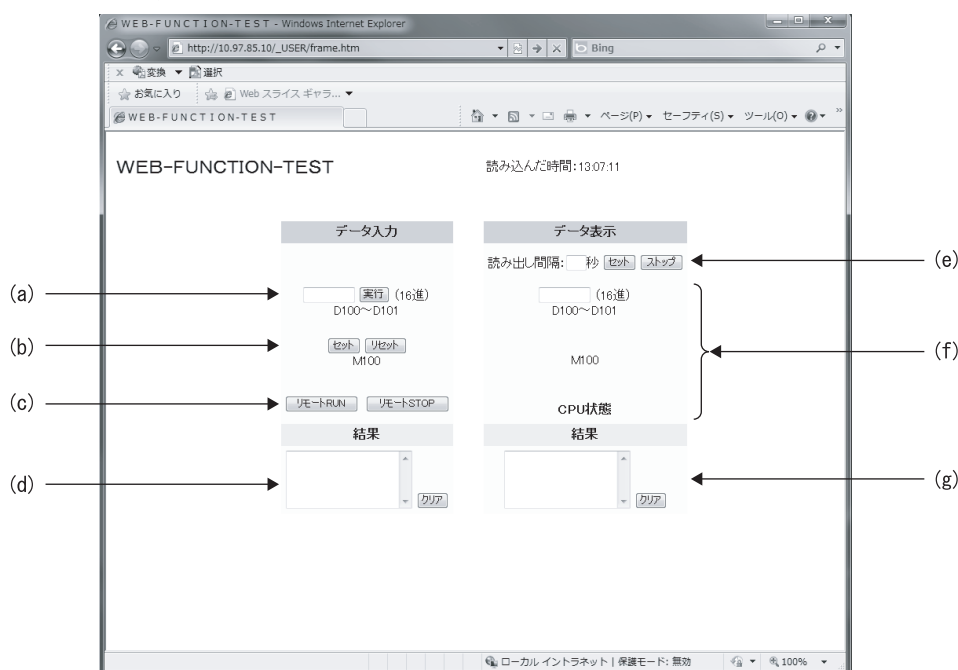
シーケンサアクセス用ファイルの作成例について説明します。

- * 本ファイルは、三菱電機FAサイト (<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/fa/>) からダウンロードできます。
(sample.zip)

(1) ユーザ作成画面の構成

本章で作成するシーケンサアクセス用ファイルの画面構成を示します。

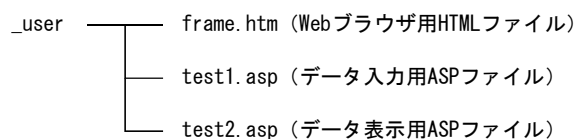
(())は、使用している関数を示します。)



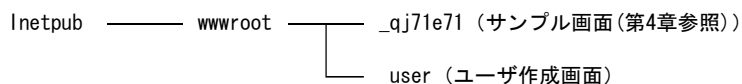
- (a) デバイス書き込み (DevWrite)
D100～D101へデータを書き込みます。
- (b) デバイス書き込み (DevWrite)
M100をON/OFFします。
- (c) リモートRUN/STOP (RmtRun/RmtStop)
リモートRUN/STOPを行います。
- (d) 結果
(a)～(c)の実行結果が表示されます。
- (e) 読み出し間隔
読み出し間隔時間を設定します。読み出し間隔をセット後、設定時間間隔ごとにランダム読み出し((f)参照)の処理を行います。
ストップでランダム読み出し処理を終了します。
- (f) ランダム読み出し (ReqCmd)
下記のデバイスメモリを読み出します。
・ D100～D101 (2点分) , M100, SD203
- (g) 結果
(f)の実行結果が表示されます。

(2) ファイル構成

(a) シーケンサアクセス用ファイルのファイル構成を以下に示します。



(b) 上記ファイルをWebサーバのルートディレクトリ“¥Inetpub¥wwwroot”へコピーします。



(c) 通信ライブラリ (DLLファイル) の登録を行っておいってください。 (3.2項参照)

すでに登録されている場合は、登録は不要です。

(3) ファイル内容

作成するファイルの内容を示します。

プログラムの“HostName”へホスト名を入力しておいてください。

(a) frame.htm

```

<HTML>
<HEAD>
<META HTTP-EQUIV="Content-Type" Content="text/html; charset=x-sjis">
<META NAME="GENERATOR" Content="Microsoft Visual Studio 6.0">
</HEAD>
<TITLE>WEB-FUNCTION-TEST</TITLE>
<FRAMESET COLS="50%,*" FRAMEBORDER=0>

<!読み込みファイルの指定>
<FRAME SRC="test1.asp">
<FRAME NAME="DATA" SRC="test2.asp">

</FRAMESET>

```

(b) test1.asp

```
<%@ Language=VBScript %>
<%
    Option Explicit

    Dim Password      'パスワード(未設定)

    Dim disp ' 戻り値
    Dim Value      ' 結果

    Dim DevData      ' デバイスデータ(入力値を使用)

    Dim Answer      ' 表示用
%>
<HTML>
<HEAD>
<META HTTP-EQUIV="Content-Type" Content="text/html; charset=x-sjis">
<META NAME="GENERATOR" Content="Microsoft Visual Studio 6.0">
</HEAD>
<%
    If Request.ServerVariables("REQUEST_METHOD")="POST" Then

        Dim Object      ' 通信ライブラリ
        Set Object=Server.CreateObject("QeAccess.McProtocol")

        Dim HostName      ' ホスト名
        HostName="□.□.□.□"

        Dim NetNo          ' ネット番号
        NetNo="00"

        Dim PcNo           ' PC番号
        PcNo="FF"

        Dim CpuTime        ' CPU監視タイマ
        CpuTime="0040"

        ' セット, リセットをクリック
        If Request.Form("SetData")<>" " Then

            ' コマンドデータの呼び出し
            Dim DevCode      ' デバイスコード
            DevCode="M*"

            Dim DevNo        ' デバイス番号
            DevNo="000100"
```

```
Dim DevNum      ' デバイス点数
DevNum="0001"

Dim SetData     ' セットデータ
Select Case Request.Form("SetData")
Case "セット"
    SetData="0001"
Case "リセット"
    SetData="0000"
End Select

disp = Object.DevWrite(HostName, NetNo, PcNo, CpuTime, DevCode, DevNo, DevNum, SetData,
Password )

Else

' リモートRUN, リモートSTOPをクリック
If Request.Form("CpuNo")<>" " Then

    Dim CpuNo      ' CPUNo
    CpuNo="03FF"

    Dim CmdMode    ' コマンドモード
    CmdMode="0001"

    Select Case Request.Form("CpuNo")
    Case "リモートRUN"

        Dim ClrMode    ' クリアモード
        ClrMode="02"

        disp=Object.RmtRun( HostName, NetNo, PcNo, CpuTime, CpuNo, CmdMode,
ClrMode, Password )

    Case "リモートSTOP"

        disp=Object.RmtStop( HostName, NetNo, PcNo, CpuTime, CpuNo, CmdMode,
Password )

    End Select

Else

' Dim DevCode      ' デバイスコード
DevCode="D*"

' Dim DevNo        ' デバイス番号
DevNo="000100"
```

```

' Dim DevNum          ' デバイス点数
DevNum="0002"

' デバイスデータ(入力値を使用)
DevData=Trim(Request.Form("DevData"))
DevData=UCase(String(8-Len(DevData),"0") & DevData)

disp = Object.DevWrite(HostName, NetNo, PcNo, CpuTime, DevCode, DevNo, DevNum,
DevData, PassWord )

End If

End If

End If

%>
<BODY>
<TABLE HEIGHT=80>
<TR><TD>
<FONT SIZE=+2>WEB-FUNCTION-TEST</FONT><P>
</TD></TR>
</TABLE>
<FORM METHOD=POST>
<TABLE BGCOLOR=LIGHTYELLOW ALIGN=RIGHT CELLPADDING=5 CELLSPACING=0 BORDER=0>
<TR BGCOLOR=CCCCFF><TH COLSPAN=2>データ入力</TH></TR>
<TR><TD COLSPAN=2 HEIGHT=50><BR></TD></TR>
<TR>
<TD COLSPAN=2 ALIGN=CENTER HEIGHT=50>
<INPUT TYPE=TEXT NAME="DevData" SIZE=10 MAXLENGTH=8 VALUE=<%=DevData%>>
<INPUT TYPE=SUBMIT VALUE="実行">
(16進)
<BR>
D100～D101
</TD>
</TR>
<TR>
<TD ALIGN=CENTER COLSPAN=2 HEIGHT=80>
<INPUT TYPE=SUBMIT NAME="SetData" VALUE="セット">
<INPUT TYPE=SUBMIT NAME="SetData" VALUE="リセット"><BR>
M100
</TD>
</TR>
<TR>
<TH HEIGHT=50><INPUT TYPE=SUBMIT NAME="CpuNo" VALUE="リモートRUN"></TH>
<TH HEIGHT=50><INPUT TYPE=SUBMIT NAME="CpuNo" VALUE="リモートSTOP"></TH>
</TR>
<TR><TH COLSPAN=2 BGCOLOR="CCFFCC">結果</TH></TR>
<TR><TH COLSPAN=2>
<%
Select Case Left(disp,5)
Case "<!OK>"

```

```

        Answer="正常完了"
Case "<!NG>"

```

```

        Answer="異常完了 " & Mid(disg, Instr(disg,"error")+Len("error")+1, 4)
End Select

```

```

%>
<TEXTAREA NAME="Answer" ROWS=5><%=Answer%></TEXTAREA>
<INPUT TYPE=BUTTON VALUE=クリア ONCLICK="this.form.elements['Answer'].value=' '>
</TH></TR>
</TABLE>
</FORM>
</BODY>
</HTML>

```

(c) test2.asp

```

<%@ Language=VBScript %>
<%
    Option Explicit

    Dim Time          ' 時間

    Dim Password      ' パスワード(未設定)

    Dim disg          ' 戻り値
    Dim Value         ' 結果

    Dim Answer        ' 表示用
%>
<HTML>
<HEAD>
<META HTTP-EQUIV="Content-Type" Content="text/html; charset=x-sjis">
<META NAME="GENERATOR" Content="Microsoft Visual Studio 6.0">
<%
    If Request.QueryString("stop")="" And Request.QueryString("time")<>"" Then

        ' 時間の設定
        Time=Request.QueryString("time")
%>
<!--時間でリフレッシュ-->
<META HTTP-EQUIV="Refresh" CONTENT="<%=Time%>">
<%
    End If
%>
</HEAD>
<%

    ' 時間が指定されていたら実行
    If Time<>"" Then

```

```

Dim Object      ' 通信ライブラリ
Set Object=Server.CreateObject("QeAccess.McProtocol")

Dim HostName    ' ホスト名
HostName="□.□.□.□"

Dim CmdData      ' コマンドデータ
CmdData="500000FF03FF0000340040040600000201SD0002030001D*0001000002M*0001000001"

Dim RetType      ' 実行結果種別
RetType = "1"

disp=Object.ReqCmd( HostName, CmdData, PassWord, RetType )

Select Case Left(disp,5)
Case "<!OK>"
    Value=Mid(disp, Len("<!OK>")+1)
End Select

End If

%>
<BODY STYLE="RIGHT">

<TABLE HEIGHT=80>
<TR><TD>
読み込んだ時間 : <%=FormatDateTime(Now(), 3)%><P>
</TD></TR>
</TABLE>
<FORM>
<TABLE BGCOLOR=lightyellow CELLPADDING=5 CELLSPACING=0 BORDER=0>
<TR BGCOLOR=#ccccff><TH COLSPAN=2>データ表示</TH></TR>
<TR>
<TD HEIGHT=50>
読み出し間隔 : <INPUT SIZE=2 MAXLENGTH=2 NAME=time VALUE="<%=Time%" ONCHANGE="check_number(this);">秒
<INPUT TYPE=submit VALUE="セット">
<INPUT TYPE=submit NAME="stop" VALUE="ストップ">
</TD>
</TR>
<TR>
<TD COLSPAN=2 ALIGN=middle HEIGHT=50>
<!データレジスタ読み出し結果>
<INPUT TYPE=TEXT SIZE=10 MAXLENGTH=8 VALUE="<%=Mid(Value, 27, 8)%>"
(16進)
<BR>
D100～D101
</TD>
</TR>
<TR>

```

```

<TD ALIGN=middle COLSPAN=2 HEIGHT=80>
<FONT SIZE=+0><B>
<%
        Select Case Mid(Value,38,1)
        Case "0"
%>
OFF
<%
        Case "1"
%>
ON
<%
        End Select
%>
</B></FONT>
<BR>
M100
</TD>
</TR>
<TR>
<TH COLSPAN=2 HEIGHT=50 VALIGN=TOP>
<%
        Select Case Mid(Value,26,1)
        Case "0"
%>
RUN
<%
        Case "2"
%>
STOP
<%
        End Select
%>
<BR>CPU状態
</TH>
</TR>
<TR><TH COLSPAN=2 BGCOLOR="#ccffcc">結果</TH></TR>
<TR><TH COLSPAN=2>
<%
        Select Case Left(displ,5)
        Case "<!OK>"

                Select Case Mid(Value,19,4)
                Case "0000"
                        Answer="正常完了"
                Case Else

```



```

        Answer="異常完了 " & Mid(Value, 19, 4)
    End Select
Case "<!NG>"
    Answer="異常完了" & Mid(dispatch, Instr(dispatch, "error")+Len("error")+1, 4)
End Select
%>
<TEXTAREA NAME="Answer" ROWS=5><%=Answer%></TEXTAREA>
<INPUT TYPE=BUTTON VALUE=クリア ONCLICK="this.form.elements['Answer'].value='' ">
</TH></TR>
</TABLE>
</FORM></P>
</BODY>
</HTML>
<SCRIPT LANGUAGE=javascript>
<!--
function check_number(element)
{
    var i;

    for(i=0;i<element.value.length;i++)
    {
        if ("0123456789".indexOf(element.value.charAt(i))==-1)
        {
            alert(element.name+'は数値で入力してください。');
            element.value='';

            element.focus();

            return false;
        }
    }

    return true;
}
//-->
</SCRIPT>

```

6 通信ライブラリ関数

通信ライブラリ関数について説明します。

(1) 通信ライブラリのサポート機能一覧

通信ライブラリでサポートする機能を以下に示します。

機 能	関 数	概 要	備 考
デバイス読み出し	DevRead	ビットデバイス (X, Y, Mなど) を16点単位で読み出す。 ワードデバイス (D, R, T, Cなど) を1点単位で読み出す。	QnA互換3Eフレーム用コマンド0401(00□0)に対応
デバイス書き込み	DevWrite	ビットデバイス (X, Y, Mなど) へ16点単位で書き込む。 ワードデバイス (D, R, T, Cなど) へ1点単位で書き込む。	QnA互換3Eフレーム用コマンド1401(00□0)に対応
リモートRUN	RmtRun	CPUユニットに対してリモートRUN要求する。	QnA互換3Eフレーム用コマンド1001(0000)に対応
リモートSTOP	RmtStop	CPUユニットに対してリモートSTOP要求する。	QnA互換3Eフレーム用コマンド1002(0000)に対応
スルーコマンド	ReqCmd	ユーザ指定のコマンド (1つのMCプロトコルのアプリケーションデータ(サブヘッダ+テキスト)) を送信し、結果を受信する。	—
プロキシ設定	ProxySet	プロキシサーバ経由でEthernetユニットを接続する場合、プロキシサーバを指定する。	—
プロキシ解除	ProxyReset	プロキシ設定を解除する。	—

(2) 通信ライブラリの関数

通信ライブラリの関数について以下に示します。

機 能	関 数		
デバイス読み出し	BSTR *p = DevRead(HostName, NetNo, PcNo, CpuTime, DevCode, DevNo, DevNum, PassWord, RetType)		
	引数	HostName : 接続先	Input
		NetNo : ネットワーク番号	Input
		PcNo : PC番号	Input
		CpuTime : CPU監視タイマ	Input
		DevCode : デバイスコード	Input
		DevNo : 先頭デバイス	Input
		DevNum : デバイス点数	Input
		PassWord : パスワード	Input
		RetType:実行結果種別 (1:実データのみ, 1以外:通常の実行結果)	Input
		*p : 実行結果の文字列へのポインタ	Output

機 能	関 数		
デバイス書き込み	BSTR *p = DevWrite(HostName, NetNo, PcNo, CpuTime, DevCode, DevNo, DevNum, DevData, PassWord)		
	引数	HostName : 接続先	Input
		NetNo : ネットワーク番号	Input
		PcNo : PC番号	Input
		CpuTime : CPU監視タイマ	Input
		DevCode : デバイスコード	Input
		DevNo : 先頭デバイス	Input
		DevNum : デバイス点数	Input
		DevData : 書き込みデータ	Input
		PassWord : パスワード	Input
		*p : 実行結果の文字列へのポインタ	Output
リモートRUN	BSTR *p = RmtRun(HostName, NetNo, PcNo, CpuTime, CpuNo, CmdMode, ClrMode, PassWord)		
	引数	HostName : 接続先	Input
		NetNo : ネットワーク番号	Input
		PcNo : PC番号	Input
		CpuTime : CPU監視タイマ	Input
		CpuNo : 対象CPU (要求先ユニットI/O番号)	Input
		CmdMode : モード	Input
		ClrMode : クリアモード	Input
		PassWord : パスワード	Input
		*p : 実行結果の文字列へのポインタ	Output
リモートSTOP	BSTR *p = RmtStop(HostName, NetNo, PcNo, CpuTime, CpuNo, CmdMode, PassWord)		
	引数	HostName : 接続先	Input
		NetNo : ネットワーク番号	Input
		PcNo : PC番号	Input
		CpuTime : CPU監視タイマ	Input
		CpuNo : 対象CPU (要求先ユニットI/O番号)	Input
		CmdMode : モード	Input
		PassWord : パスワード	Input
		*p : 実行結果の文字列へのポインタ	Output
スルーコマンド	BSTR *p = ReqCmd(HostName, CmdData, PassWord, RetType)		
	引数	HostName : 接続先	Input
		CmdData : アプリケーションデータ (サブヘッダ+テキスト(コマンド))	Input
		PassWord : パスワード	Input
		RetType: 実行結果種別 (1: 実データのみ, 1以外: 通常の実行結果)	Input
	*p : 実行結果の文字列へのポインタ		Output
プロキシ設定	BSTR *p = ProxySet(ProxyName, PortNo)		
	引数	ProxyName : プロキシサーバのアドレス	Input
		PortNo : HTTPのポート番号	Input
	*p : 実行結果の文字列へのポインタ		Output
プロキシ解除	BSTR *p = ProxyReset()		
	引数	*p : 実行結果の文字列へのポインタ	Output

(3) 関数で使用する引数

通信ライブラリ関数で使用する引数について示します。

通信ライブラリの引数は、すべてMCプロトコルのASCIIコードによる交信の設定と同じ文字列で指定します。

引 数	データ型	概 要	設定範囲	説明項
ClrMode	文字列	クリアモードを指定する。	00, 01, 02	リファレンス マニュアル参照
CmdData		MCプロトコル (QnA互換3Eフレーム) のアプリケーションデータ (サブヘッダ+テキスト(コマンド)) を指定する。	MCプロトコルのフォーマットに従い入力する。	
CmdMode		リモート操作のモードを指定する。	0001, 0003	
CpuTime		CPU監視タイマを指定する。	0000~FFFF	
CpuNo		対象CPUを指定する。(要求先ユニットI/O番号)	0000~01FF, 03E0~03E3, 03FF	
DevCode		デバイスコードを指定する。	((a)参照)	
DevData		デバイス点数分のデータを指定する。	—	
DevNo		先頭デバイス番号を指定する。	((a)参照)	
DevNum		デバイス点数を指定する。	1~960	
HostName		接続先EthernetユニットのIPアドレスまたはホスト名で指定する。	—	—
NetNo		最後に経由するネットワーク番号を指定する。	00~EF, FE	リファレンス マニュアル参照
PassWord		リモートパスワードを指定する。	—	—
PcNo		アクセス局のPC番号を指定する。	01~40, 7D, 7E, FF	リファレンス マニュアル参照
PortNo		HTTPのポート番号を指定する。	—	—
ProxyName		プロキシサーバのIPアドレスまたはホスト名を指定する。	—	—
RetType		実行結果種別を指定する。 1 : 実データのみ CPUユニットから返されたアプリケーションデータ (サブヘッダ+テキスト(レスポンス)) のみを返す。 1以外: 通常の実行結果 通信ライブラリで編集したデータを返す。	—	—

(a) デバイスコード，先頭デバイス番号

デバイスコードとデバイス番号範囲（デバイス点数）を示します。

デバイスメモリの読出し／書込みでアクセスできるデバイスは，対象CPUユニットにより異なります。詳細については，リファレンスマニュアルを参照してください。

デバイス		デバイス種別		デバイスコード	デバイス番号範囲	表 現		
		ビット	ワード			10進数	16進数	
特殊リレー		○		SM	アクセス先のユニットが持つデバイス番号の範囲で指定します。	○		
特殊レジスタ			○	SD		○		
入力リレー		○		X*			○	
出力リレー		○		Y*			○	
内部リレー		○		M*		○		
ラッチリレー		○		L*		○		
アナンシェータ		○		F*		○		
エッジリレー		○		V*		○		
リンクリレー		○		B*			○	
データレジスタ			○	D*		○		
リンクレジスタ			○	W*			○	
タイマ	接点	○		TS			○	
	コイル	○		TC			○	
	現在値		○	TN			○	
積算タイマ	接点	○		SS			○	
	コイル	○		SC			○	
	現在値		○	SN			○	
カウンタ	接点	○		CS			○	
	コイル	○		CC			○	
	現在値		○	CN			○	
リンク特殊リレー		○		SB				○
リンク特殊レジスタ			○	SW				○
ステップリレー		○		S*			○	
ダイレクト入力		○		DX				○
ダイレクト出力		○		DY				○
インデックスレジスタ			○	Z*			○	
ファイルレジスタ			○	R*			○	
				ZR				○
拡張データレジスタ			○	D*	バイナリコード： アクセス先のユニットが持つデバイス番号の範囲で指定します。 ASCIIコード： 000000～999999	○		
拡張リンクレジスタ			○	W*	アクセス先のユニットが持つデバイス番号の範囲で指定します。		○	

(4) 関数の戻り値

通信ライブラリ関数の戻り値について説明します。

(a) 戻り値の先頭に、実行結果を判別するためのコードを付加します。

正常完了時は、<!OK>を付加します。

異常完了時は、<!NG>を付加します。

* ReqCmdは、MCプロトコルエラー時も<!OK>を付加します。

(b) 異常完了時にエラーを判別するコードを付加します。

① HTTPエラー時は、<!NG><!HTTP error “HTTPエラーコード”>を付加します。

② WinSockエラー時は、<!NG><!WinSock error “WinSockエラーコード”>を付加します。

③ MCプロトコルエラー時は、<!NG><!MCP error “エラーコード (終了コード)”>を付加します。

* エラーコードにより以下のマニュアルを参照し、エラー内容の確認／処置を行ってください。

<エラーコード>

4FFF_H以下：使用するCPUユニットのユーザーズマニュアル（ハードウェア設計・保守点検編）

C000_H～：ユーザーズマニュアル（基本編）

④ 通信ライブラリエラー時は、エラーメッセージを表示します。

(c) アクセス先のCPUユニットに、HTTPポートを対象にしたリモートパスワードが設定されている場合は、下記戻り値のエラーコードを条件としてリモートパスワード入力処理用プログラムを作成してください。（リモートパスワード入力処理用プログラムの記述方法例については、4.5項参照してください。）

<!HTTP error 401>

(d) 通信ライブラリ関数の戻り値について例で示します。

関 数	条件	戻り値 (例)
DevRead	正常完了	RetType="1"以外 <!OK>-デバイス読み出し実行結果- 正常完了 デバイスコード D* デバイス先頭 000000 デバイス点数 4 読み出しデータ 123456789ABC1234
		RetType="1" <!OK>123456789ABC1234
	異常完了	<!NG><!MCP error C056>-デバイス読み出し実行結果- 異常完了 C056
DevWrite	正常完了	<!OK>-デバイス書き込み実行結果- 正常完了
	異常完了	<!NG><!MCP error C056>-デバイス書き込み実行結果- 異常完了 C056
RmtRun	正常完了	<!OK>-リモートRUN実行結果- 正常完了
	異常完了	<!NG><!MCP error 4B00>-リモートRUN実行結果- 異常完了 4B00
RmtStop	正常完了	<!OK>-リモートSTOP実行結果- 正常完了
	異常完了	<!NG><!MCP error 4B00>-リモートSTOP実行結果- 異常完了 4B00
ReqCmd	正常完了	RetType="1"以外 <!OK>-スルーコマンド実行結果- MCプロトコル正常完了 D00000FF03FF0000140000123456789ABC1234
		RetType="1" <!OK>D00000FF03FF0000140000123456789ABC1234
	異常完了	RetType="1"以外 <!OK>-スルーコマンド実行結果- MCプロトコル異常完了 C056 D00000FF03FF000016C05600FF03FF0004010000
		RetType="1" <!OK>D00000FF03FF000016C05600FF03FF0004010000
ProxySet	正常完了	<!OK>-プロキシ設定- プロキシ設定を完了しました
	異常完了	<!NG>-通信ライブラリエラー- プロキシの設定値を確認してください
ProxyReset	正常完了	<!OK>-プロキシ設定- プロキシ設定を解除しました
	異常完了	<!NG>-通信ライブラリエラー- プロキシ情報が未設定のため解除できません

【C】

CPUユニット…………… A- 9

【E】

Ethernetユニット…………… A- 9, 2- 2

【M】

MCプロトコル…………… A- 9

【W】

Web機能使用時の操作手順…………… 3- 1

Web機能の概要…………… 1- 1

Webサーバ…………… A- 9, 2- 2

Webサーバソフトウェア…………… A- 9

Webサーバの活用…………… 1- 3

Webブラウザ…………… A- 9, 2- 2

【か】

関連マニュアル…………… A- 7

【さ】

サンプル画面説明…………… 4- 2

サンプル画面でのWeb機能の確認…………… 4- 1

サンプル画面によるデータ通信例…………… 4- 3

サンプル画面の機能…………… 4- 1

サンプル画面のダウンロード…………… 3- 2

サンプル画面のファイル構成…………… 4-16

【し】

シーケンサアクセス用ファイルの作成例… 5- 1

システム構成…………… 2- 1

【す】

スルーコマンド…………… 4- 11

【せ】

先頭デバイス番号…………… 6- 4

【そ】

総称・略称について…………… A- 9

【た】

ダウンロードファイルの解凍…………… 3- 3

ダウンロードファイルの構成…………… 3- 3

ダウンロードファイルのセットアップ… 3- 3

【つ】

通信ライブラリの引数…………… 6- 3

通信ライブラリの関数…………… 6- 1

通信ライブラリのサポート機能…………… 6- 1

通信ライブラリのダウンロード…………… 3- 2

通信ライブラリの登録…………… 3- 4

通信ライブラリの戻り値…………… 6- 5

【て】

デバイスコード…………… 6- 4

デバイス読み出し／書き込み…………… 4- 5

【ふ】

プロキシ設定…………… 4- 14

プログラミングツール…………… A- 9

【ま】

マニュアルの見方…………… A- 8

【み】

三菱電機FAサイト…………… 1- 2

【り】

リモートRUN/STOP…………… 4- 9

リモートパスワードチェック…………… 1- 4

[illegible]

保証について

ご使用に際しましては、以下の製品保証内容をご確認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

1. 無償保証期間と無償保証範囲

無償保証期間中に、製品に当社側の責任による故障や瑕疵（以下併せて「故障」と呼びます）が発生した場合、当社は買い上げいただきました販売店または当社サービス会社を通じて、無償で製品を修理させていただきます。ただし、国内および海外における出張修理が必要な場合は、技術者派遣に要する実費を申し受けます。また、故障ユニットの取替えに伴う現地再調整・試運転は当社責務外とさせていただきます。

【無償保証期間】

製品の無償保証期間は、お客様にてご購入後またはご指定場所に納入後36ヵ月とさせていただきます。ただし、当社製品出荷後の流通期間を最長6ヵ月として、製造から42ヵ月を無償保証期間の上限とさせていただきます。また、修理品の無償保証期間は、修理前の無償保証期間を超えて長くなることはありません。

【無償保証範囲】

- (1) 一次故障診断は、原則として貴社にて実施をお願い致します。ただし、貴社要請により当社、または当社サービス網がこの業務を有償にて代行することができます。この場合、故障原因が当社側にある場合は無償と致します。
- (2) 使用状態・使用方法、および使用環境などが、取扱説明書、ユーザーズマニュアル、製品本体注意ラベルなどに記載された条件・注意事項などに従った正常な状態で使用されている場合に限定させていただきます。
- (3) 無償保証期間内であっても、以下の場合には有償修理とさせていただきます。
 - ① お客様における不適切な保管や取扱い、不注意、過失などにより生じた故障およびお客様のハードウェアまたはソフトウェア設計内容に起因した故障。
 - ② お客様にて当社の了解なく製品に改造などの手を加えたことに起因する故障。
 - ③ 当社製品がお客様の機器に組み込まれて使用された場合、お客様の機器が受けている法的規制による安全装置または業界の通念上備えられているべきと判断される機能・構造などを備えていれば回避できたと認められる故障。
 - ④ 取扱説明書などに指定された消耗部品が正常に保守・交換されていれば防げたと認められる故障。
 - ⑤ 消耗部品（バッテリー、リレー、ヒューズなど）の交換。
 - ⑥ 火災、異常電圧などの不可抗力による外部要因および地震、雷、風水害などの天変地異による故障。
 - ⑦ 当社出荷当時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障。
 - ⑧ その他、当社の責任外の場合またはお客様が当社責任外と認めた故障。

2. 生産中止後の有償修理期間

- (1) 当社が有償にて製品修理を受け付けることができる期間は、その製品の生産中止後7年間です。生産中止に関しましては、当社テクニカルニュースなどにて報じさせていただきます。
- (2) 生産中止後の製品供給（補用品も含む）はできません。

3. 海外でのサービス

海外においては、当社の各地域FAセンターで修理受付をさせていただきます。ただし、各FAセンターでの修理条件などが異なる場合がありますのでご了承ください。

4. 機会損失、二次損失などへの保証責務の除外

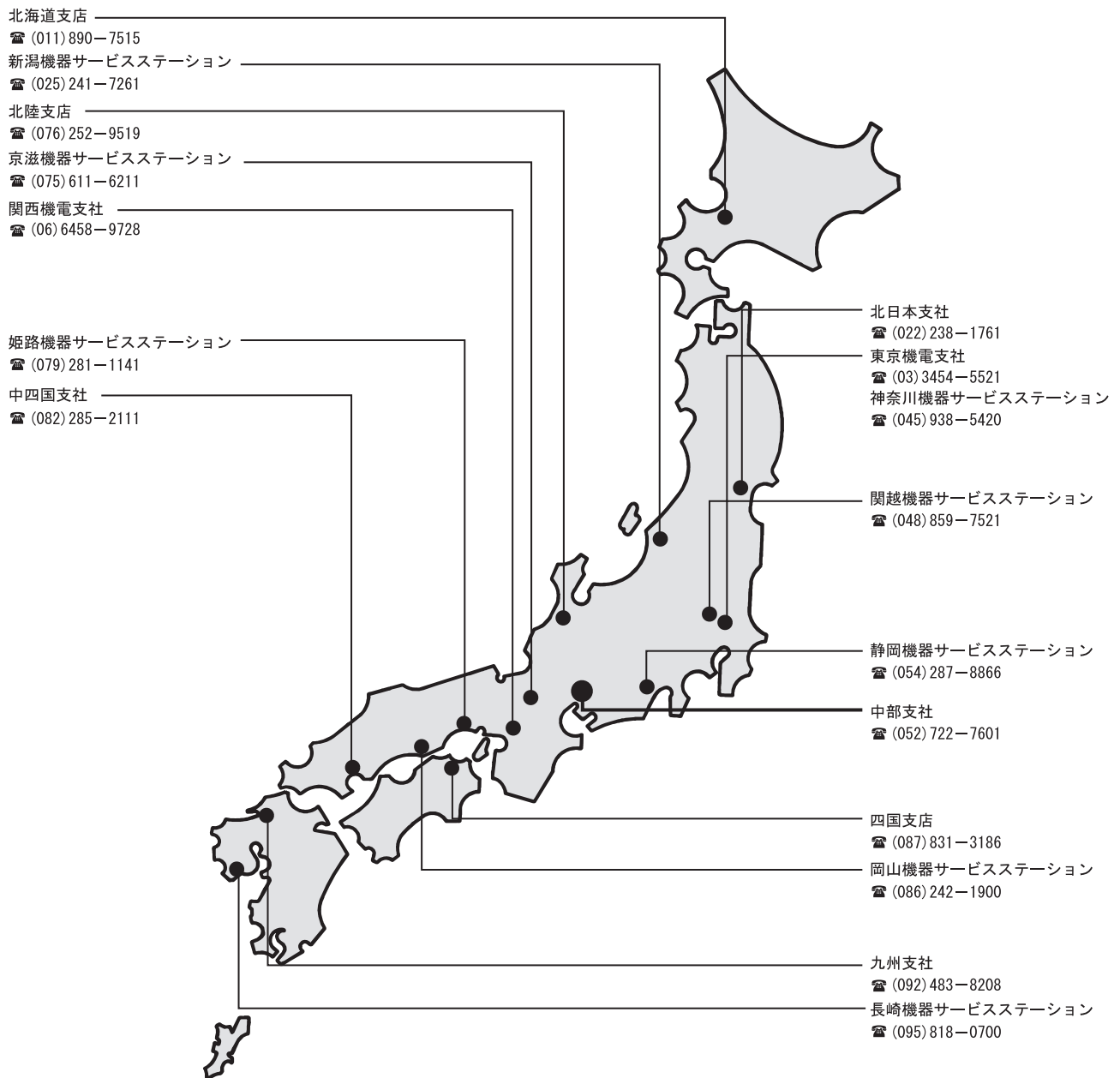
無償保証期間の内外を問わず、当社の責に帰すことができない事由から生じた障害、当社製品の故障に起因するお客様での機会損失、逸失利益、当社の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害、二次損害、事故補償、当社製品以外への損傷、およびお客様による交換作業、現地機械設備の再調整、立上げ試運転その他の業務に対する補償については、当社責務外とさせていただきます。

5. 製品仕様の変更

カタログ、マニュアルもしくは技術資料などに記載の仕様は、お断りなしに変更させていただく場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

以 上

サービスネットワーク（三菱電機システムサービス株式会社）



Microsoft, Windows, Windows NT, Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Pentiumは、Intel Corporationの米国およびその他の国における商標です。
Ethernetは、米国Xerox Corporationの商標です。
PC-9800, PC98-NXは、日本電気株式会社の登録商標です。
その他、本文中における会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

MELSEC-Q/L Ethernetインタフェースユニット ユーザーズマニュアル

Web機能編



三菱電機株式会社

〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部	〒100-8310	東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)	(03) 3218-6760
北海道支社	〒060-8693	札幌市中央区北二条西4-1(北海道ビル)	(011) 212-3794
東北支社	〒980-0011	仙台市青葉区上杉1-17-7(仙台上杉ビル)	(022) 216-4546
関東支社	〒330-6034	さいたま市中央区新都心11-2(明治安田生命さいたま新都心ビル)	(048) 600-5835
新潟支店	〒950-8504	新潟市中央区東大通2-4-10(日本生命ビル)	(025) 241-7227
神奈川支社	〒220-8118	横浜西区みなとみらい2-2-1(横浜ランドマークタワー)	(045) 224-2624
北陸支社	〒920-0031	金沢市広岡3-1-1(金沢パークビル)	(076) 233-5502
中部支社	〒451-8522	名古屋市西区牛島町6-1(名古屋ルーセントタワー)	(052) 565-3314
豊田支店	〒471-0034	豊田市小坂本町1-5-10(矢作豊田ビル)	(0565) 34-4112
関西支社	〒530-8206	大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル)	(06) 6347-2771
中国支社	〒730-8657	広島市中区中町7-32(ニッセイ広島ビル)	(082) 248-5348
四国支社	〒760-8654	高松市寿町1-1-8(日本生命高松駅前ビル)	(087) 825-0055
九州支社	〒810-8686	福岡市中央区天神2-12-1(天神ビル)	(092) 721-2247

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa/

メンバー
登録無料!

インターネットによる情報サービス「三菱電機FAサイト」

三菱電機FAサイトでは、製品や事例などの技術情報に加え、トレーニングスクール情報や各種お問い合わせ窓口をご提供しています。また、メンバー登録いただくとマニュアルやCADデータ等のダウンロード、eラーニングなどの各種サービスをご利用いただけます。

三菱電機FA機器電話、FAX技術相談

●電話技術相談窓口 受付時間※1 月曜～金曜 9:00～19:00、土曜・日曜・祝日 9:00～17:00

対象機種		電話番号
シーケンサ	MELSEC-Q/L/QnA/Aシーケンサ一般(下記以外)	052-711-5111
	MELSEC-F FX/Fシーケンサ全般	052-725-2271※2
	ネットワークユニット/シリアルコミュニケーションユニット	052-712-2578
	アナログユニット/温度ユニット/温度入力ユニット/高速カウンタユニット	052-712-2579
	MELSOFT シーケンサプログラミングツール	052-711-0037
	MELSOFT 統合エンジニアリング環境	
	MELSOFT 通信支援ソフトウェアツール	
	MELSECバソコンボード	052-712-2370
	C言語コントローラ/MESインタフェースユニット/高速データローガーユニット	
	iQ Sensor Solution	
	MELSEC計装/Q二重化	
	MELSEC Safety	
	電力計測/絶縁監視ユニット	
	表示器	
	サーボ/位置決めユニット/モーションコントローラ	
インバータ ロボット	インバータ	
	ロボット	
	インバータ	
	ロボット	

※1: 春季・夏季・年末年始の休日を除く ※2: 金曜は17:00まで ※3: 土曜・日曜・祝日を除く

●FAX技術相談窓口 受付時間※4 9:00～16:00(受信は常時※5)

対象機種	FAX番号
上記電話技術相談対象機種	052-719-6762
電力計測/絶縁監視ユニット(QE8□シリーズ)	084-926-8340

三菱電機FAサイトの「仕様・機能に関するお問い合わせ」もご利用ください。

※4: 土曜・日曜・祝日、春季・夏季・年末年始の休日を除く ※5: 春季・夏季・年末年始の休日を除く

本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。

形名	QJ71E71-U-WEB-J
形名 コード	13JT53
SH(名)-080144-F(1211)MEE	

この印刷物は2012年11月の発行です。なお、お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。

この標準価格には消費税は含まれておりません。ご購入の際には消費税が付加されますのでご承知置き願います。

2012年11月作成
標準価格 1,500円